唐土訓蒙圖彙　自九至十一

目次

巻之九　器用之部
砲銃鈇鉞耕具織器類
巻之十　器用之部
冠冕衣裘旗旄木石類
巻之十一　艸木之部
山石苔蔓瓜蓏花卉類

030
M86

4785
MOROKOSHI KUNMOZUI

唐土訓蒙圖彙巻之九

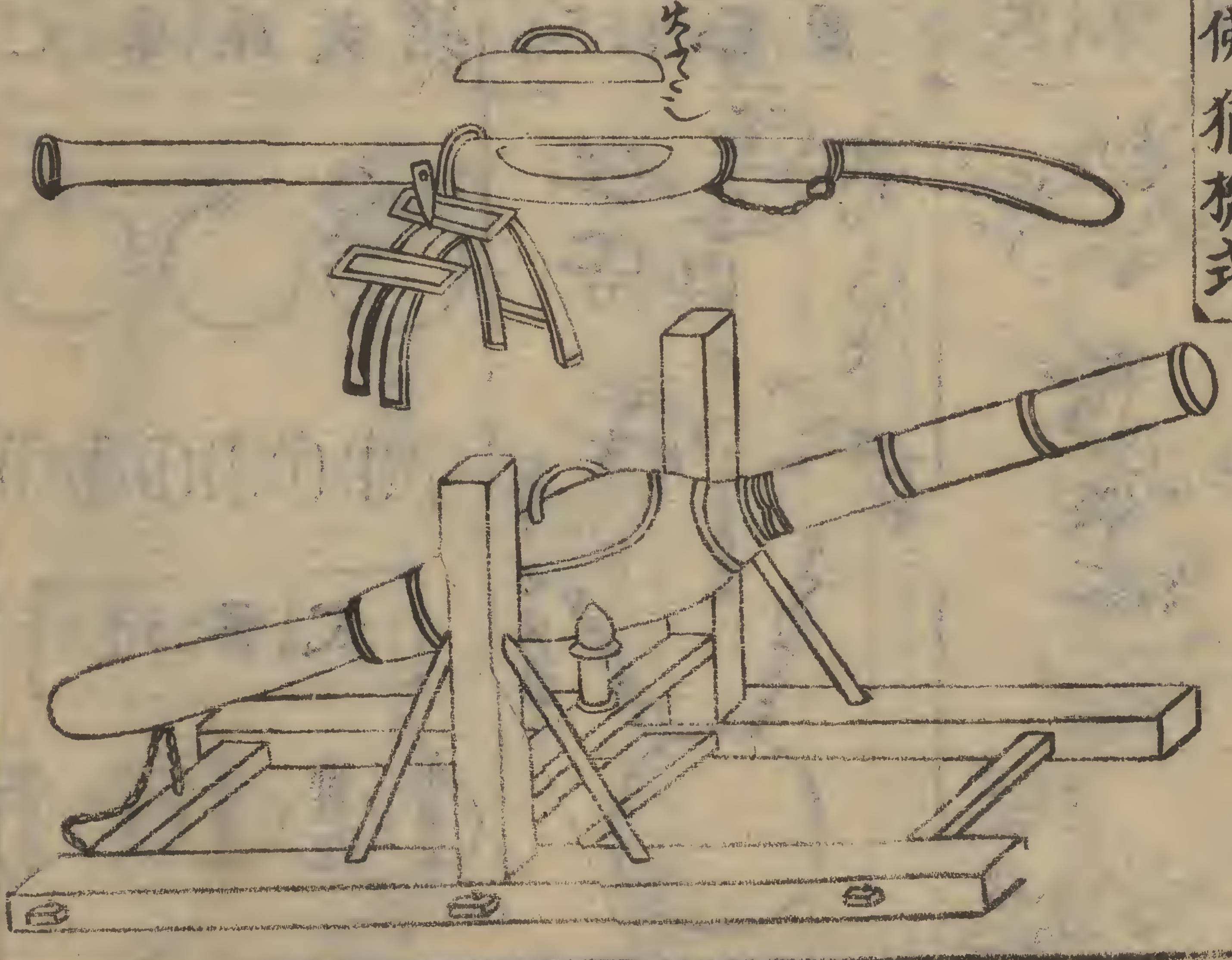
器用之三

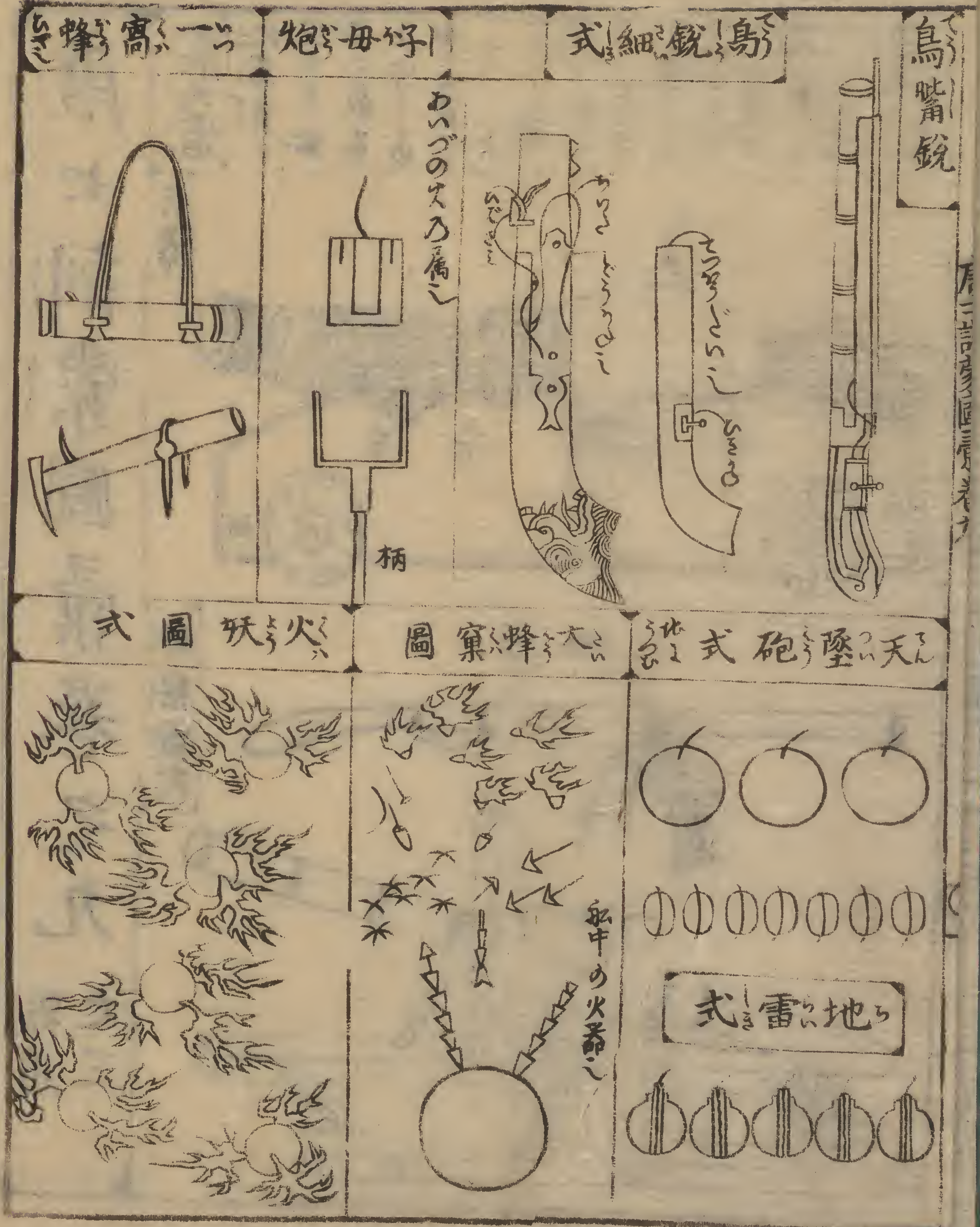
兵器

震天雷

此器重さ五百斤鉛子の数百と容さその重さ四斤しこれにくハ石をもる弾思ニ和ス六いし火矢九りみなり大筒とをこれ城と攻敵とをらぞくの利器者一し

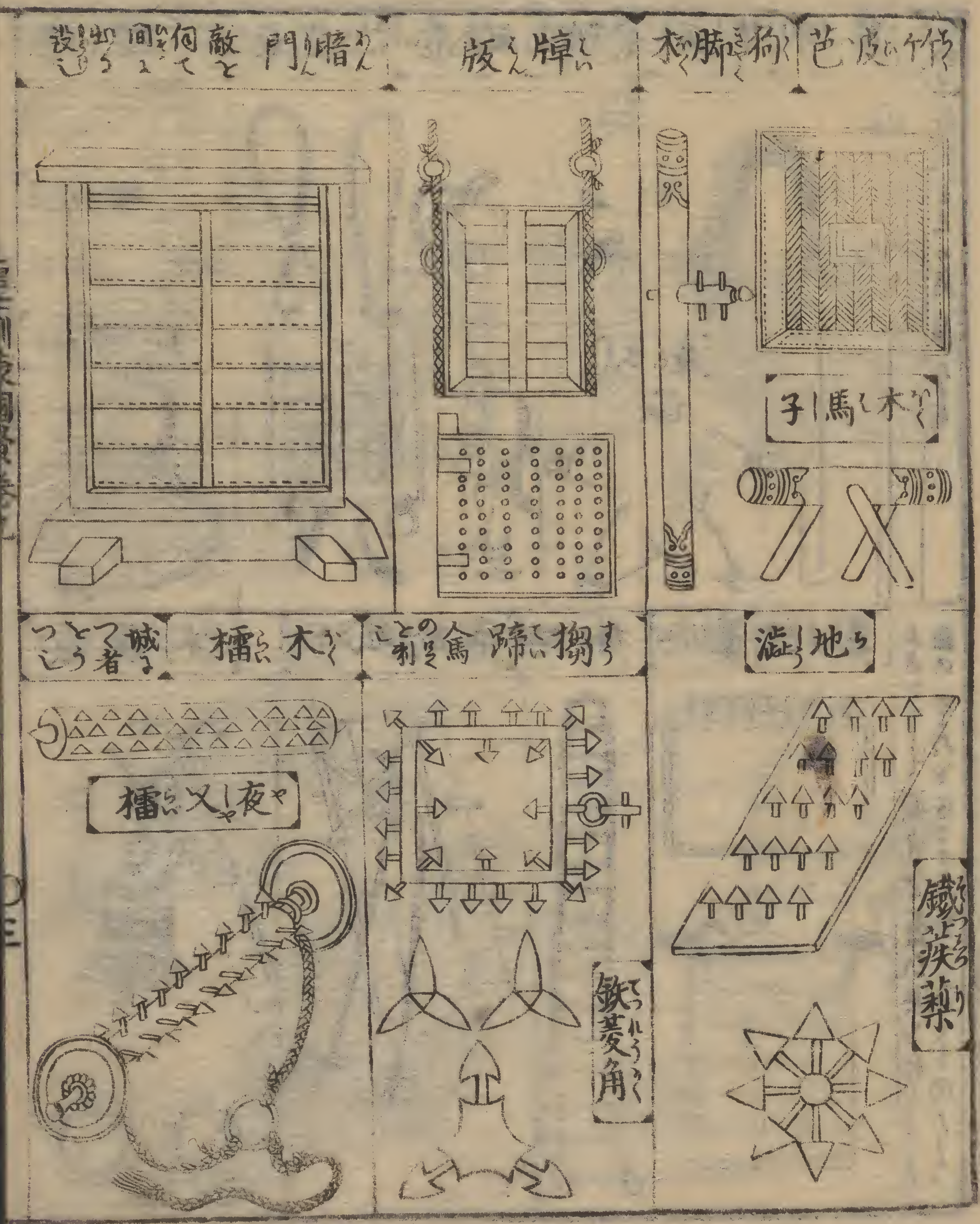
佛狼機式



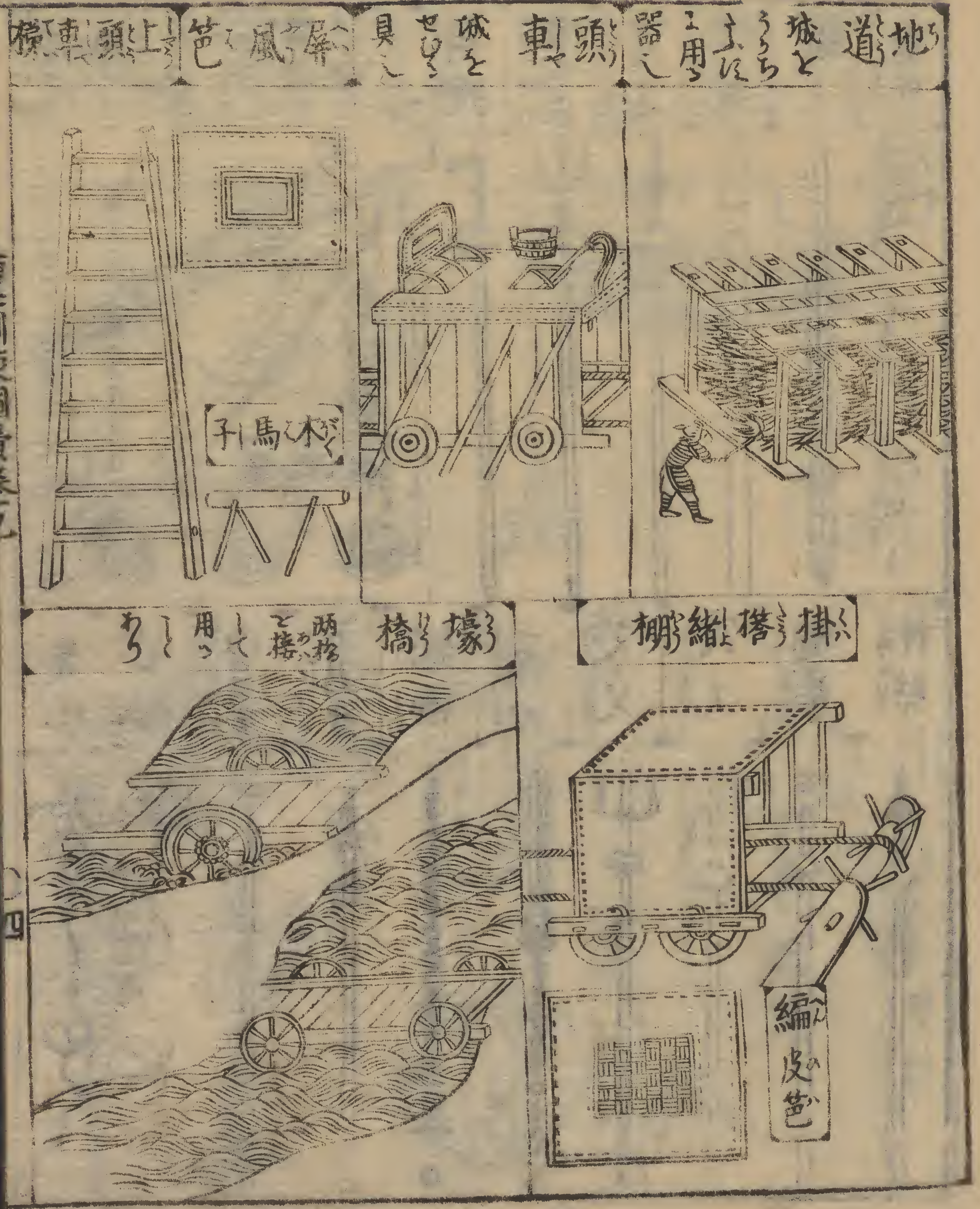

鳥嘴銃
鳥銃細式
子母炮
あいづの火乃属し
柄
一窩蜂
天墜砲式
大蜂窠圖
火妖圖式
地雷式

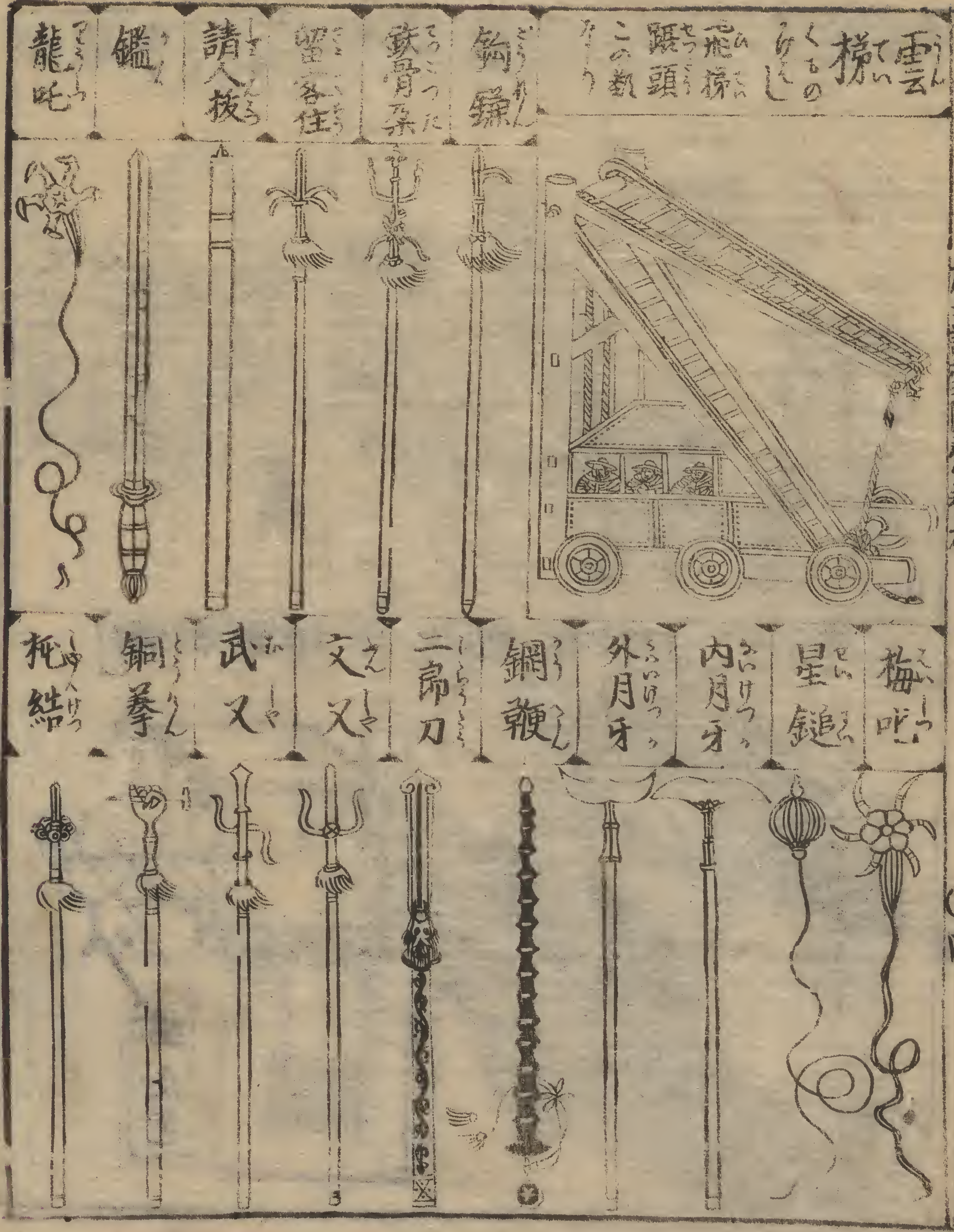
飛天噴筒
兩廣藥箭
腰牌圖
竹の籤四寸五六分なり
或ハ圓牌を代てもちゆ
某哨某隊某甲兵某
此间に姓名をきざむ
天蓬鏟式
内外皆鋒刃横長二尺柄長八九尺或一丈也
兵ハ馬歩戰第一利器也
狼筅
棍式
鉤竿
剉子斧
叉竿

望楼
和にてせいろうし一人を上せて敵よせさまにて旗をひらきてしらするなり
水平
是和にて上下の間をしらるつかうものなし
照板
水のさかひどをしる
度竿
飛絙式
善水を游く土をして岸の者に繩を付て向の岸に至らしめ人数をわたすべし
浮嚢 水をわたる用
うきぐつにひつじの皮にてつくる
垂鐘版
牛皮にてつくりて矢をふせぐ
蒐籬笆


暗門 敵と何て間ニ出る設
牌版
狗脚木
竹皮笆
木馬子
木擂 城ニて守者という
擲蹄籥 ことの刺
地澁
夜叉擂
鐵蒺藜
鉄菱角

塼檑
狼牙拍
飛鉤
水甕
麻搭
唧筒
泥檑
車脚檑
水袋
右の三品火をとゞむる具なり
鐵撞木
下城絞車
縄梯
皮簾
氈簾
土色ふして洞穴と蔽ひ兵をかくしおく敵のせるを攻るとき出てふせくものなり


地道 城とうちおとに工用の器也
頭車 城をせむる具也
屛風笆
上頭車㯭
木馬子
壕橋 両ハ接(つ)ぎとして用ゆるもあり
掛搭緒棚
編皮笆



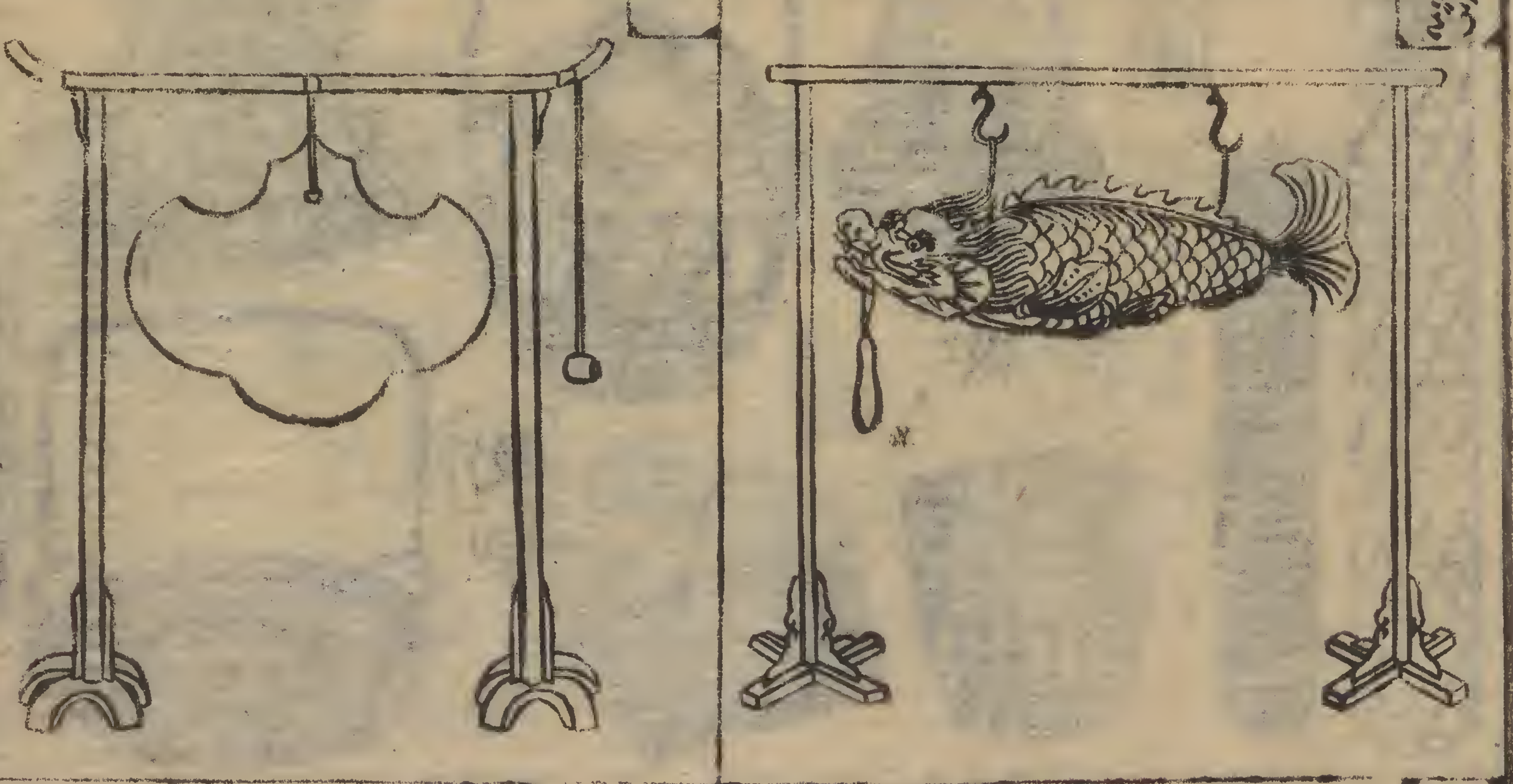
柳(かうしぎ)

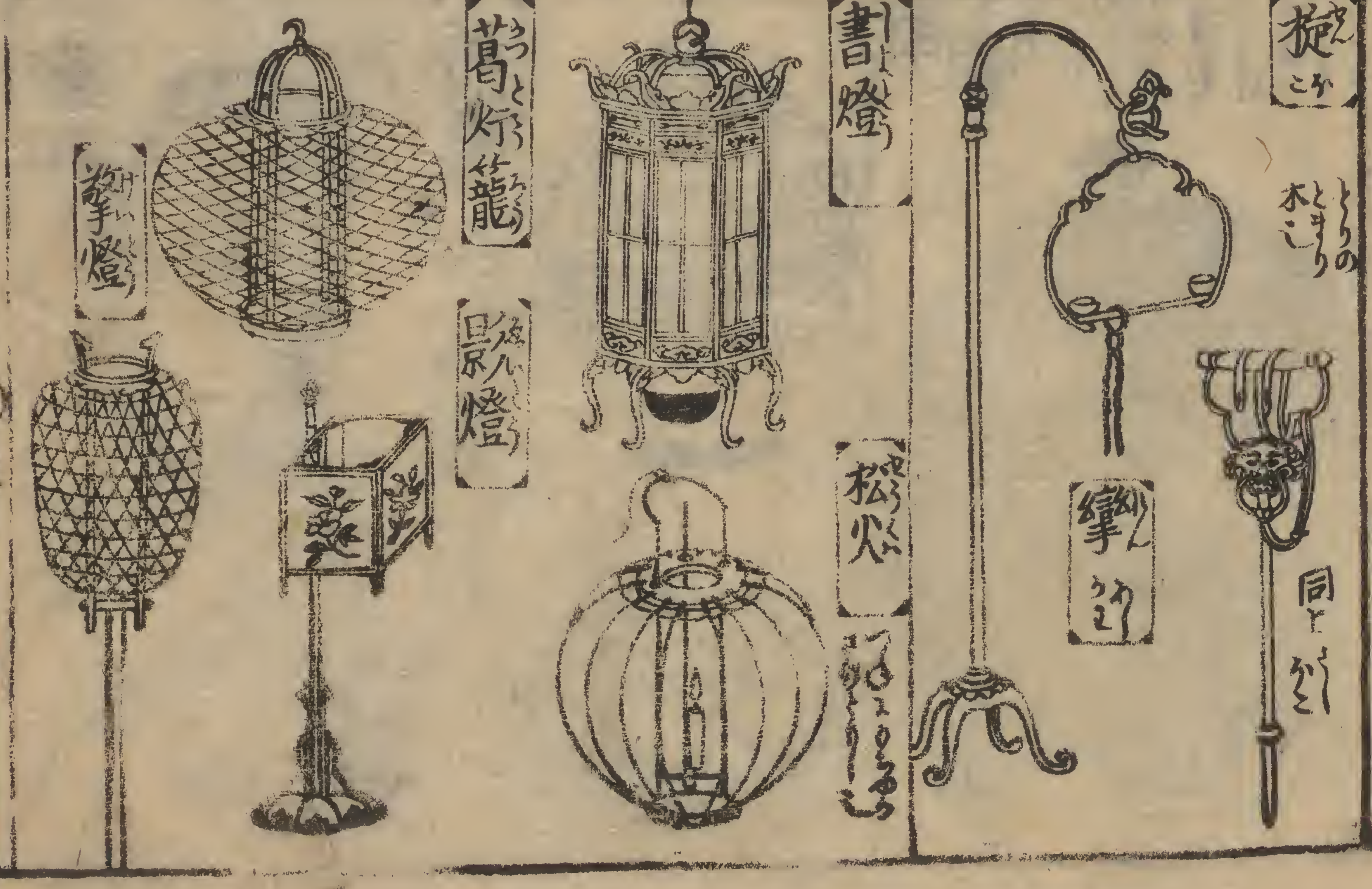
柳ハ即ち柝也易曰重門撃柝以待暴客といふもこれ夜ゆゑ木を撃て更籌とかぞふ者も同し

典鐘(てんしやう)

唐六典曽鐘を撃こと大史門にあり典鐘二百八十人撃編鐘と掌ることあり

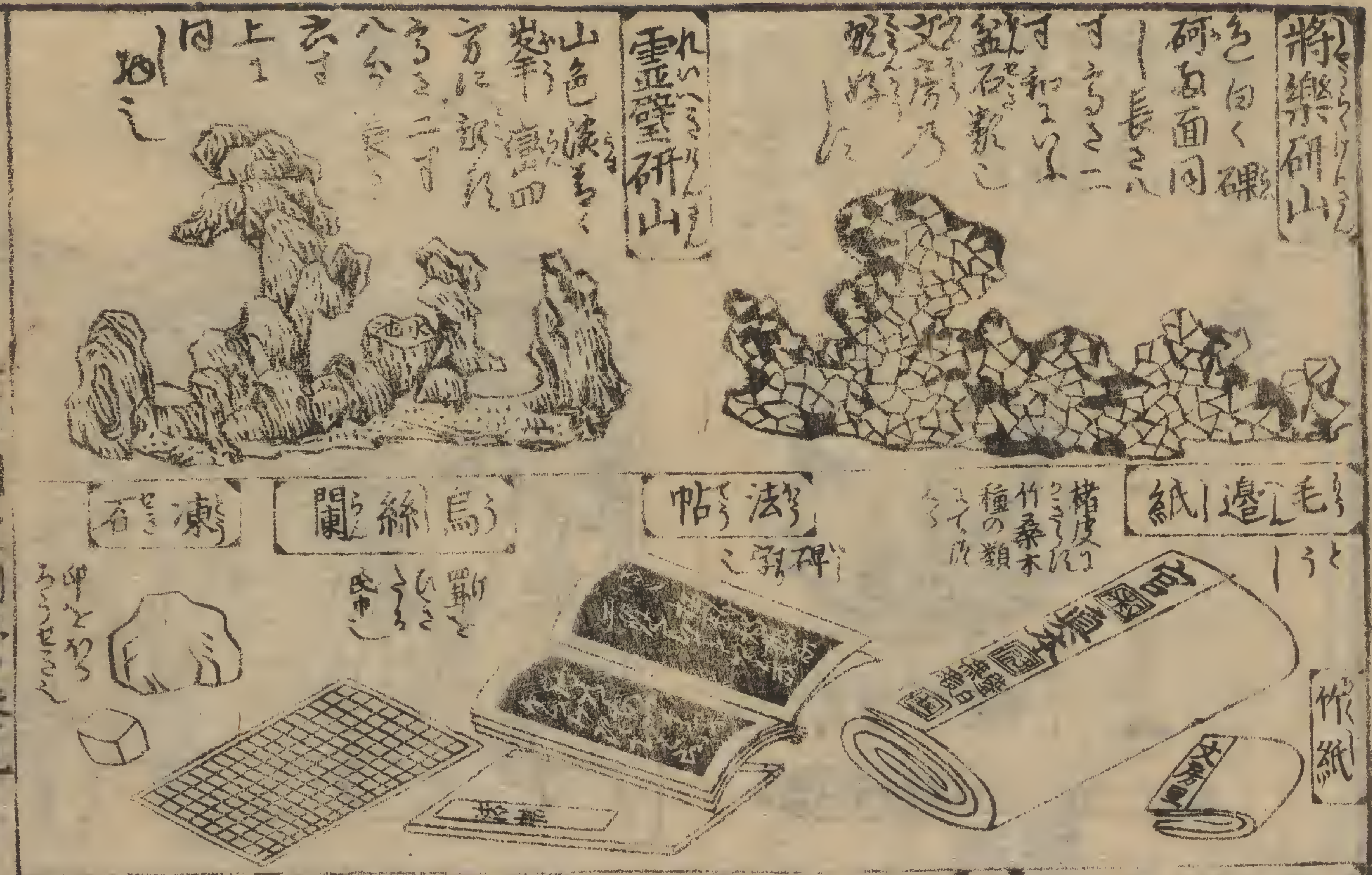
○柳典ハ漏刻をうけの具なり必寂氏の具にあらず

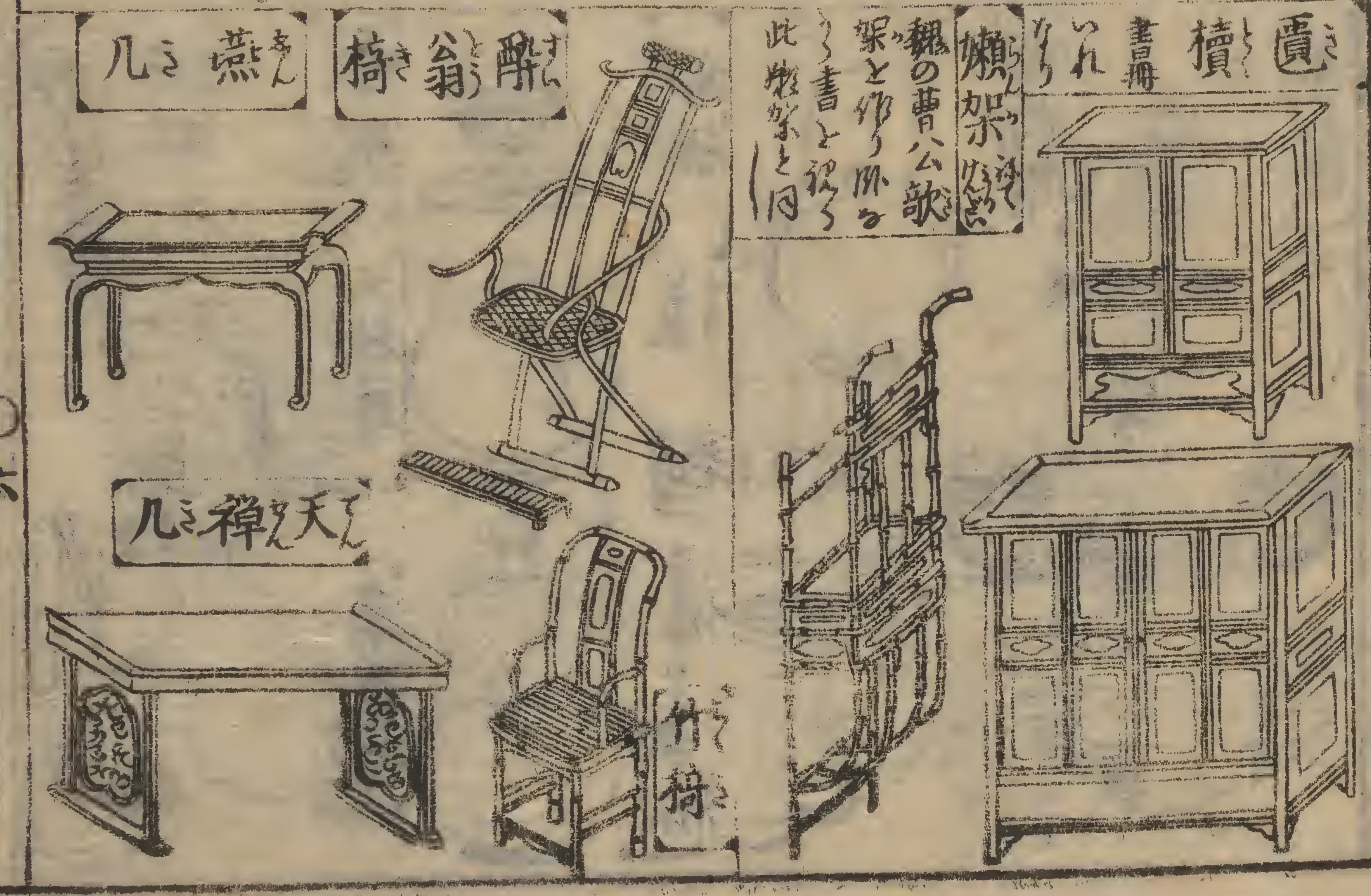




篝
烏府 すみとり
一名 炭斗
箪
梢箕 こめかご
佳文席 ござ
飯䈰
飯帚 くんけい つぎ
竹夫人

藥瓢 ひやうたん
挾囊 きんちやく
曲輪 ゆぐ
裂文
奩 古人物をいれおくうつはなりうつはに種々ありかへしとるへし


將樂研山 色白く礫砥面同し長さ八寸ひろさ二寸和にて鉱石數々文房乃珍ら好もし
靈璧研山 山色淺青く峯窟皿方に部れひろさ二寸八分高さ六寸上に白し如し
毛邊紙 楮皮にてかうぞ竹桑木の類にて成る
とうし
竹紙
法帖 碑字とも
烏絲闌 罫をいとうちの帛
凍石 印をほるろうせき


燕几
醉翁椅
天禪几
竹椅
懶架 魏の曹公歌架と作り所なる書を掛く此数架と同
匱櫝 書冊いれなり

牀帳
倒鼈氣
一名海水精
佛郎瓷
千里鏡
酒旗
臺盤
偏提
茶瓶なり
棕將軍
貝光録
大極尊
銅杓
老瓦盆
田家の酒いれもの
鏁
上同
葫蘆樽
瓢杯

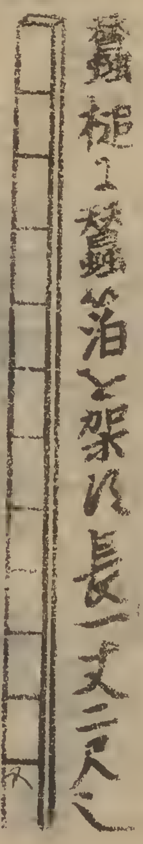
桑梯
蠶織類
桑几
斫斧
桑鉤
桑籠
切刀
劖刀
桑網
桑の枝とる斧

蠶槌（さんつい）

槌ハ植こしみつひるをいとちくるこ よろちなり

蠶椽（さんてん）

蠶槌ニ蠶箔を架るゝ長一丈二尺なり

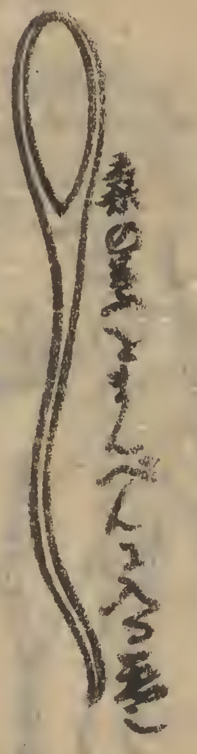


蠶筐（さんきやう）

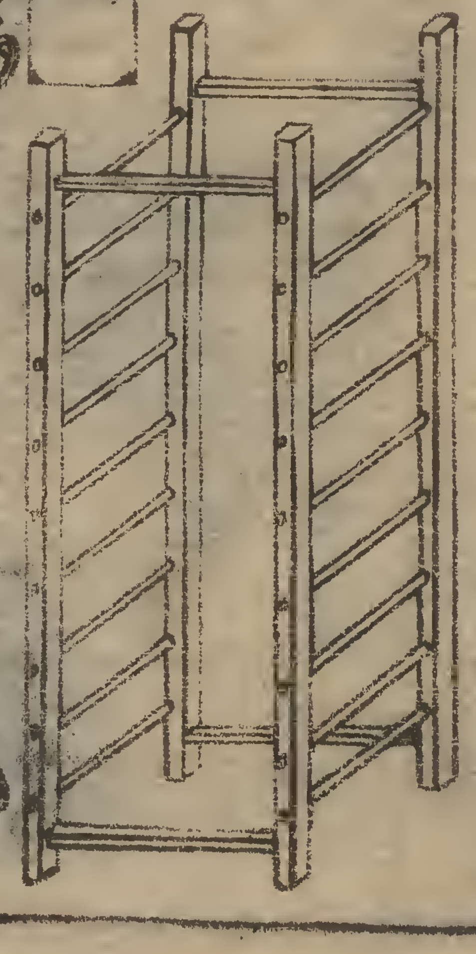
蠶と方月するを架るなり

蠶杓（さんしやく）

桑の葉をきざんでいるゝ也



蠶架（さんか）



蠶網（さんもう）

蠶ヲ別架ニうつす時ハ網ニ桑を入て蠶其のうへにあがるを上へ出て桑をくらふ うつしあらし

蠶箔（さんはく） すだれ

蠶槌ニかくるなり

蠶槃（さんばん）

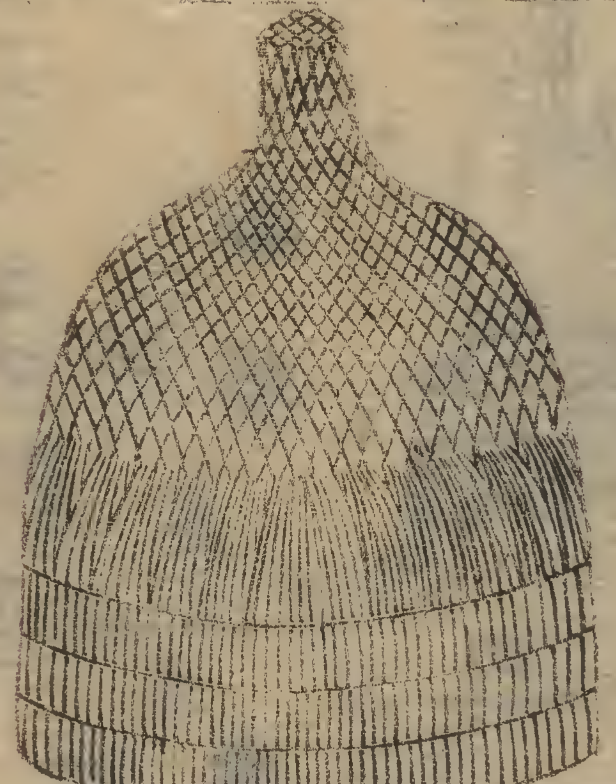
蠶槌の中間にかくるなり 長七尺廣さ五尺なり

繭甕（けんおう）

繭を収るつくる甕なり 桐の葉を繭に敷き一重とし十斤に塩二両をまぜ封じて七日の後にいだせば よし

蠶蛾竹簇（さんがちくぞく）

蒿柳叢柴をもつてつくり蔟箔をまて圓亭のごとく蠶を上げる所として造る 南北のかわりあり 図は南方なり

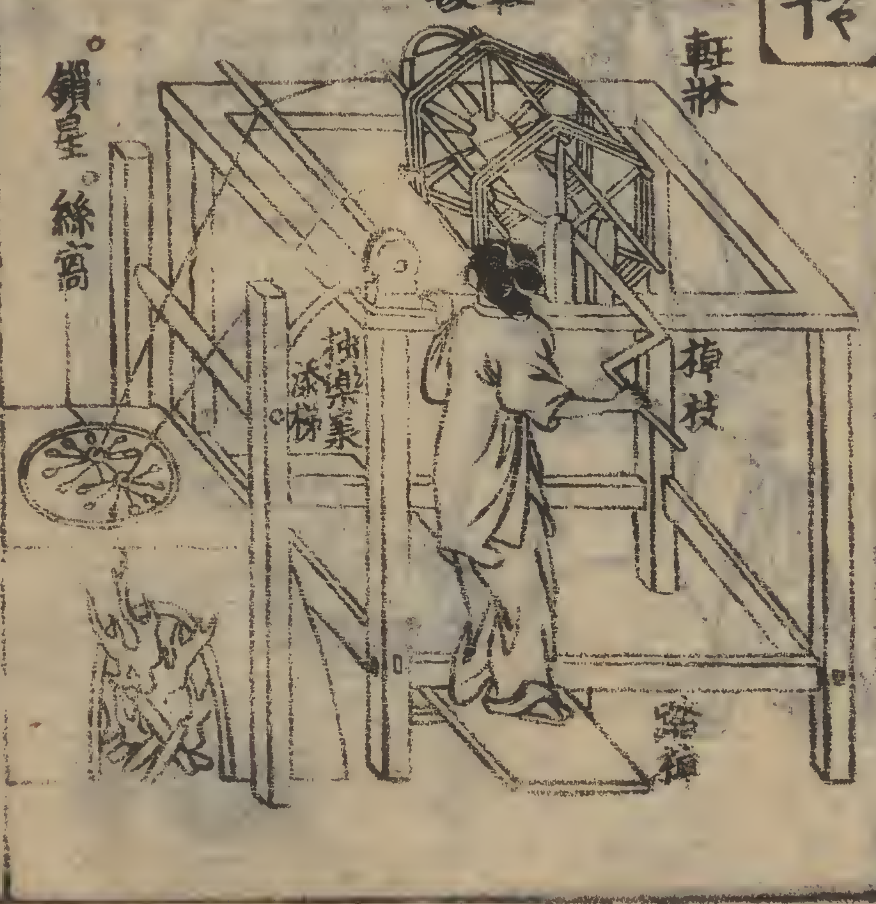


繭籠（けんろう）

蒸繭とて繭をむして蛾のいでざるやうにする也

北繅車（ほくそうしや）

繅車に南北の品あり 南国ハ訓蒙図彙に図す このたび北国をしるす

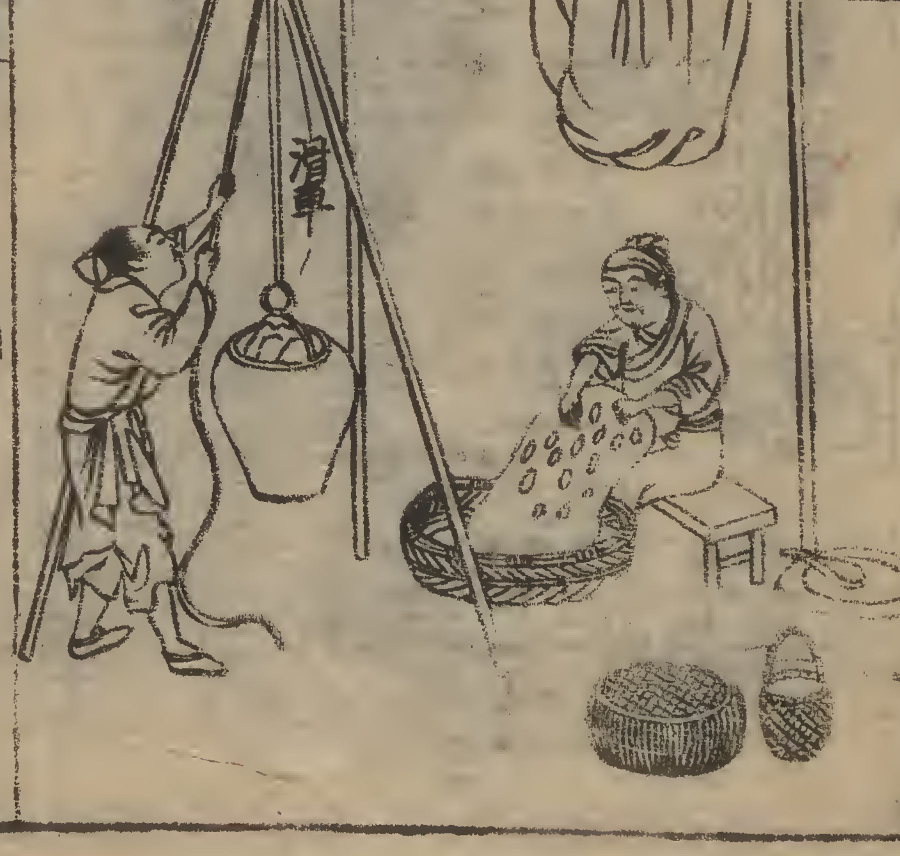


絡車（らくしや）

經架（いとかけ）

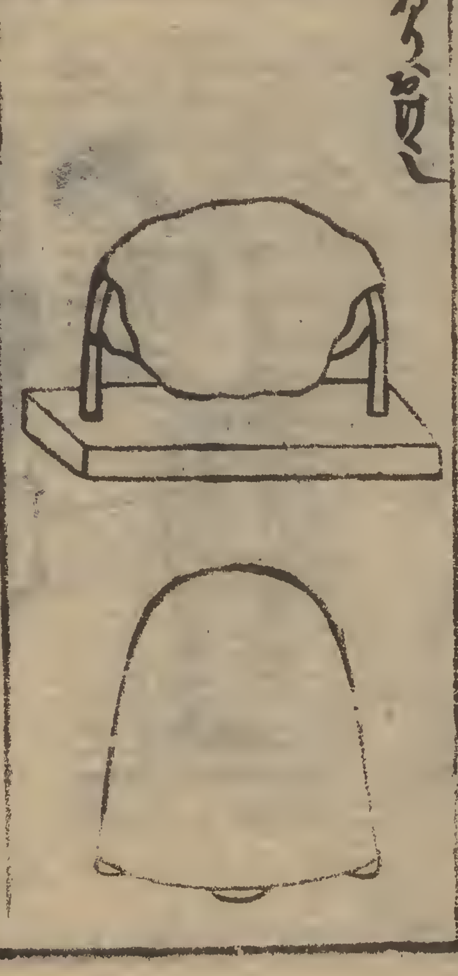
煮繭滑車（しやけんこつしや）

甕の内へ灰湯を入て繭をつきて出し湯しそそらして わてつきとる



綿矩（めんく）

ことをつむ具 竹にて尾をそつくる

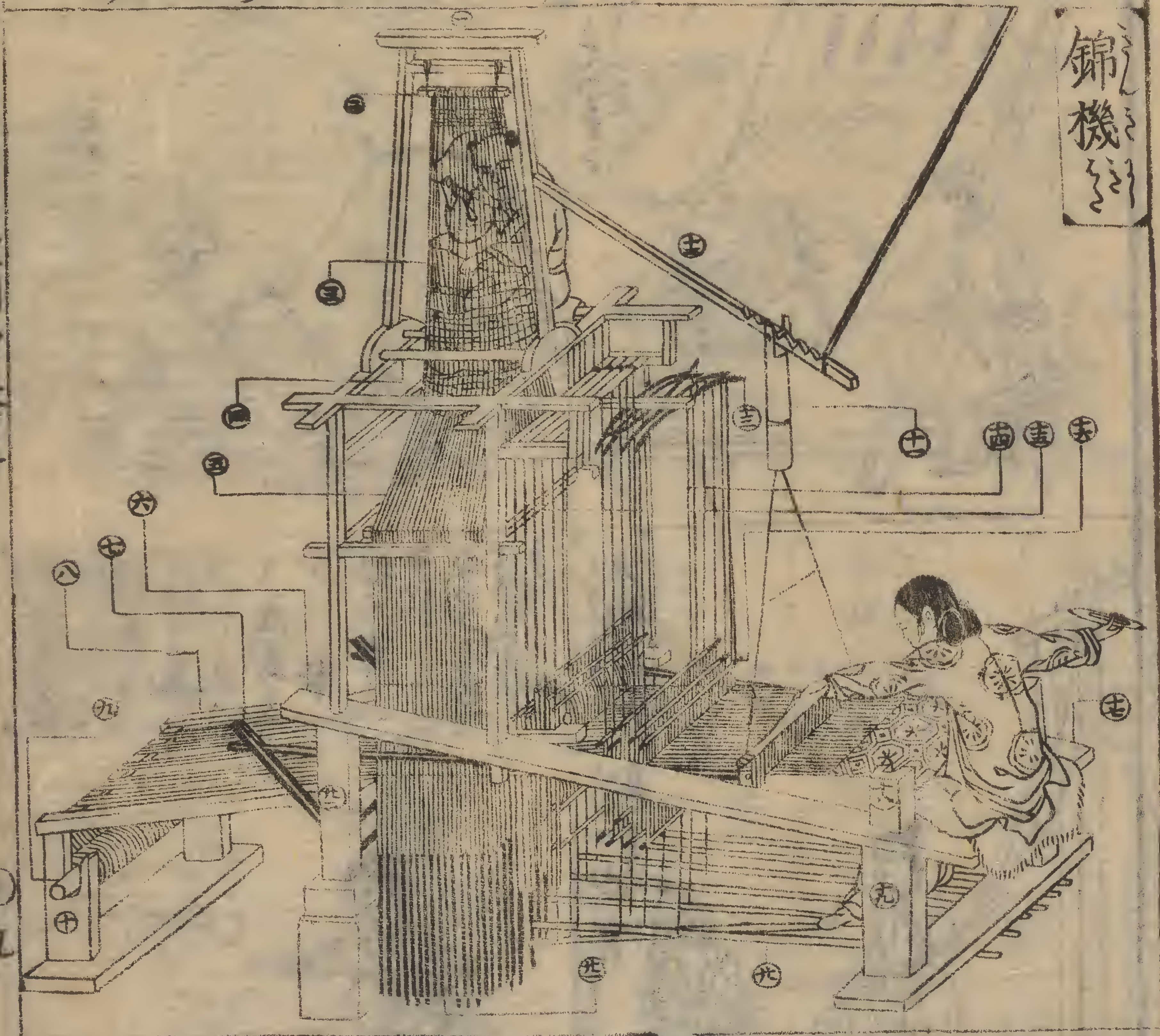


凡蠶織の類の具これより多し おの訓蒙図彙のせられたれば ふたゝびそのせつをのせず 好事の人かの書を見るべし

機具相文（きぐのあひもん）

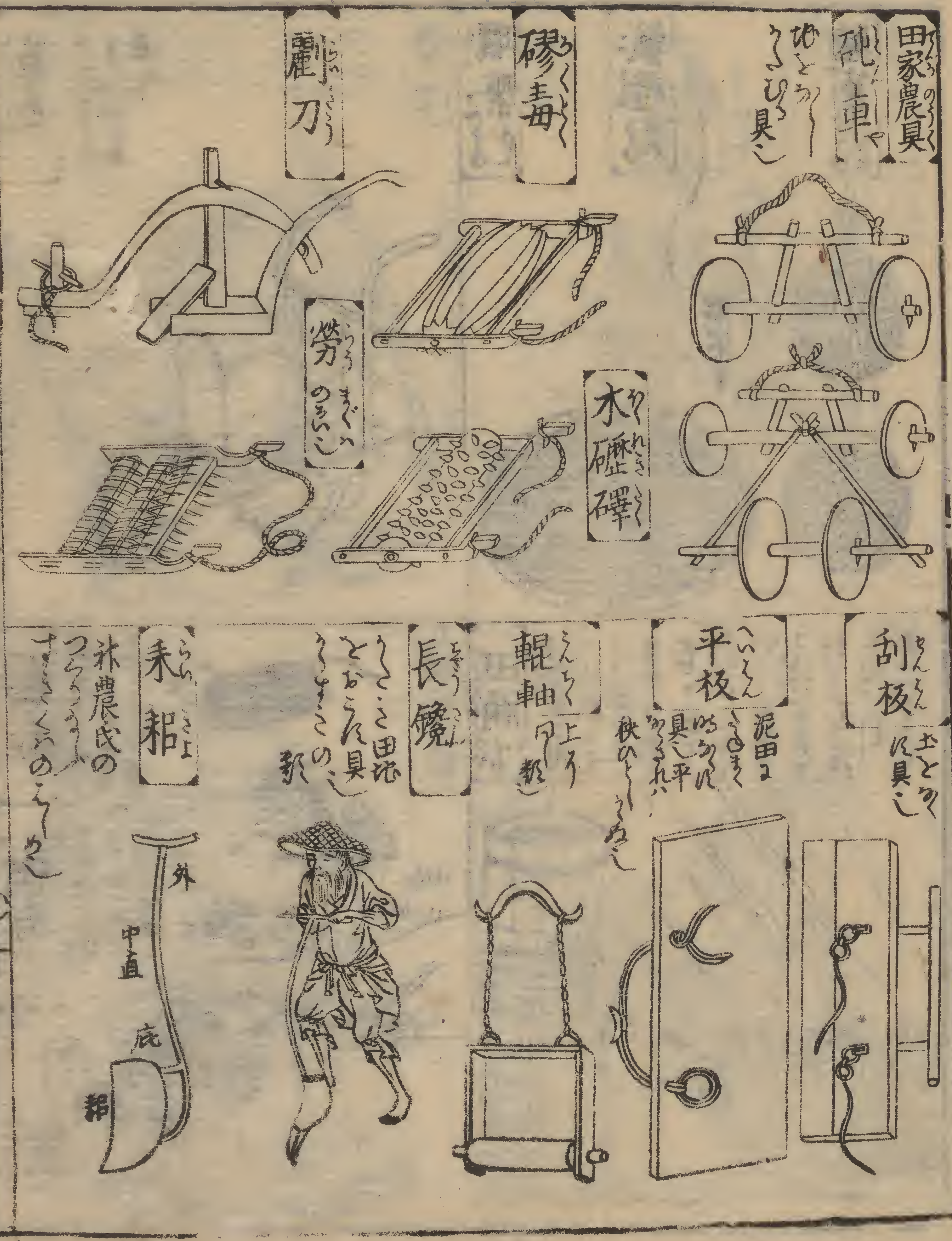
一 トリヰ
二 モンキヤ
三 スンチ
四 ロクロ
五 ヘダナ
六 キジヤウズ
七 ヒキヌ
八 シツギ
九 チキリ
十 ハジカミ
十一 ヲサツリ
十二 ヤリヲサ
十三 ユミ
十四 ムマノリ
十五 キバタ
十六 フグセ
十七 シキイタ
十八 チマキ
十九 マヘヅタ
二十 フミダケ
廿一 イワ
廿二 ナカヅク

錦機（きんき）



それ機ハむかし黄帝の后始て蠶し絲をとり機織の功を遂玉ふ それよりこのかた女子の一の業となれり 古の機ハ人多く綜を撥しつるは代々に習して二人と有の機除を織るハ機と見ゆべし 此機工を求る人ハ其文乃和名をも知るへし

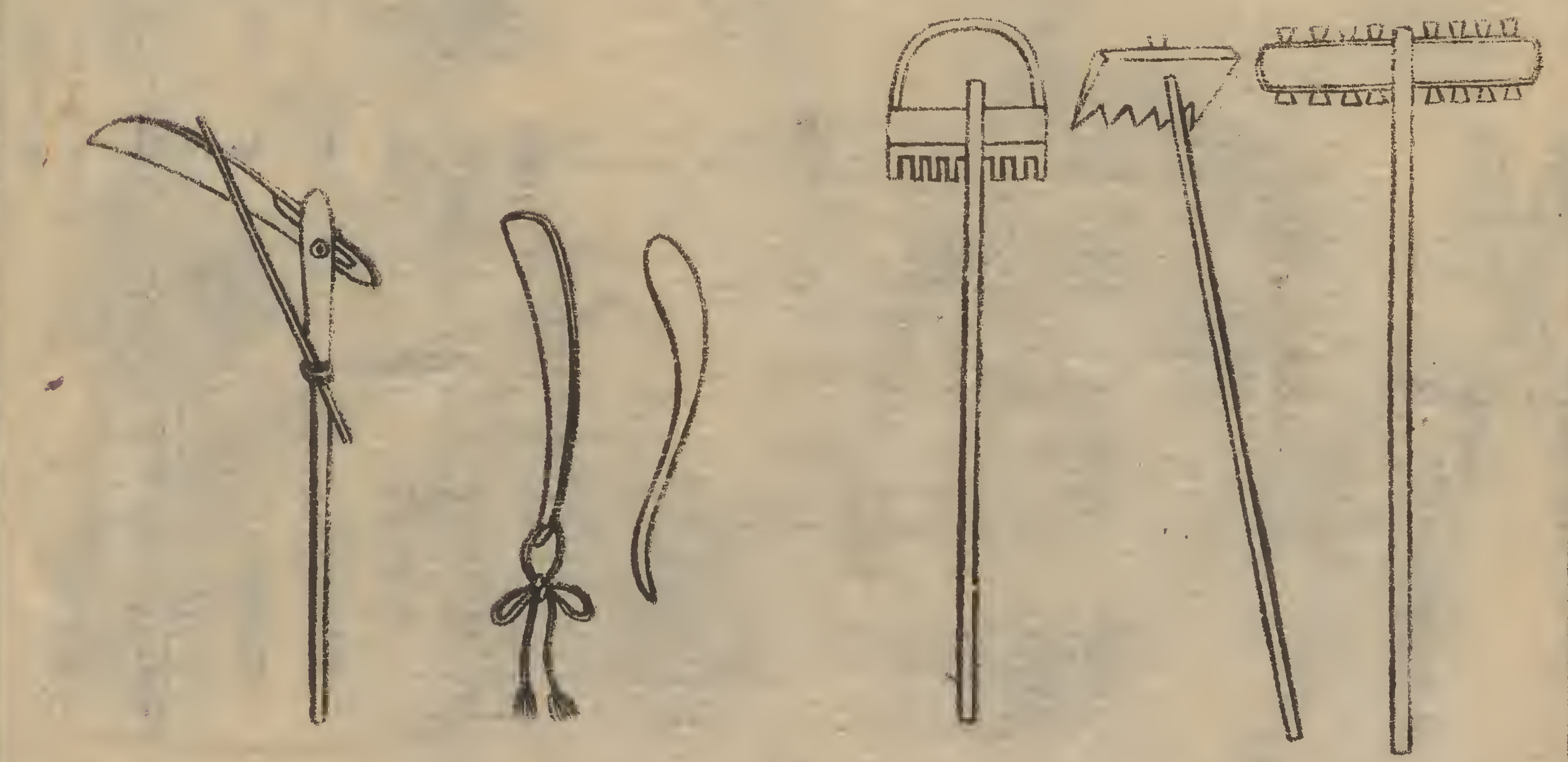
木綿彈弓
木綿經牀
木綿捲莛
木綿線架


田家農具
砘車
磟碡
劐刀
耮
木礰礋
刬板
平板
輥軸
長鑱
耒耜
外
中直
底
耜

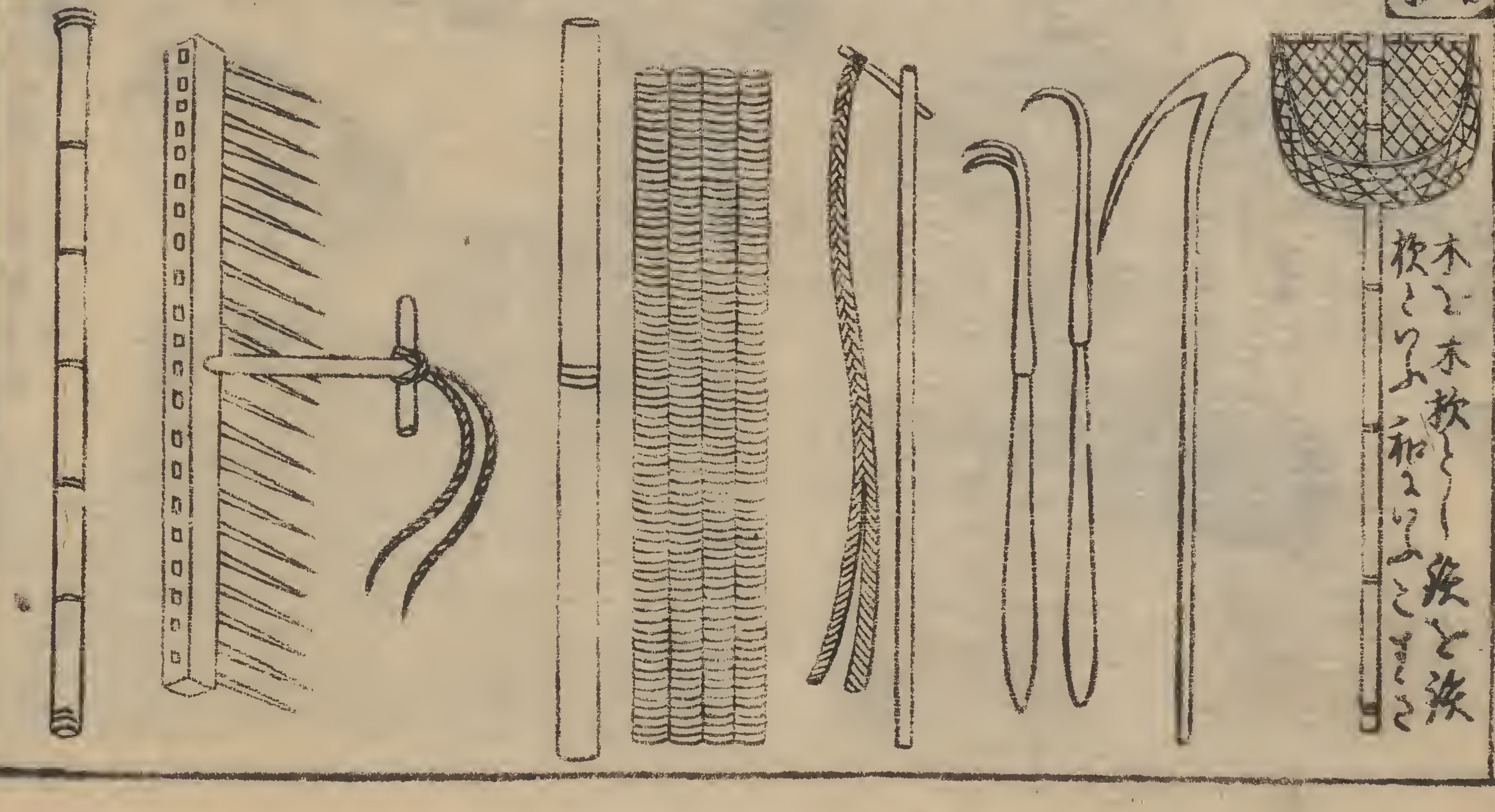
簍車
さひまくさ ひらかる具し
鑼槃
瓠種
種簞
薅馬
田の艸とる時ハ うちまこに衣のすそとらさむ具し
秧馬
泥田に秧をうゆる時のるもの也
田漏
農家に用て時刻をしる器なり 其制壺に穴をあけて刻むに節をかし壺水下に漏ハ水を斟て浮箭の刻をしる也

喬扞
稲禾をかくる木也
麥笐
稲麦をかける架なり
攢稲簞
いねをうつむしろ
篩穀筋

穀把　小把　耘把　麥鈔　掿刀　鏺



竹揚杴　禾鉤　搭爪　呼鞭　穀盅　秧弾　拖把 麥とかを倒す具　抄竿　上に同じ



木にて木杴とし竹を竹杴といふ和名いかきさらへ

麥綽　麥籠　積苫 むらまのおほひ　穀匣

笔 五穀とをつむ　篅　籮　篩　䉛籃　團　䉢　淅米簸　箉

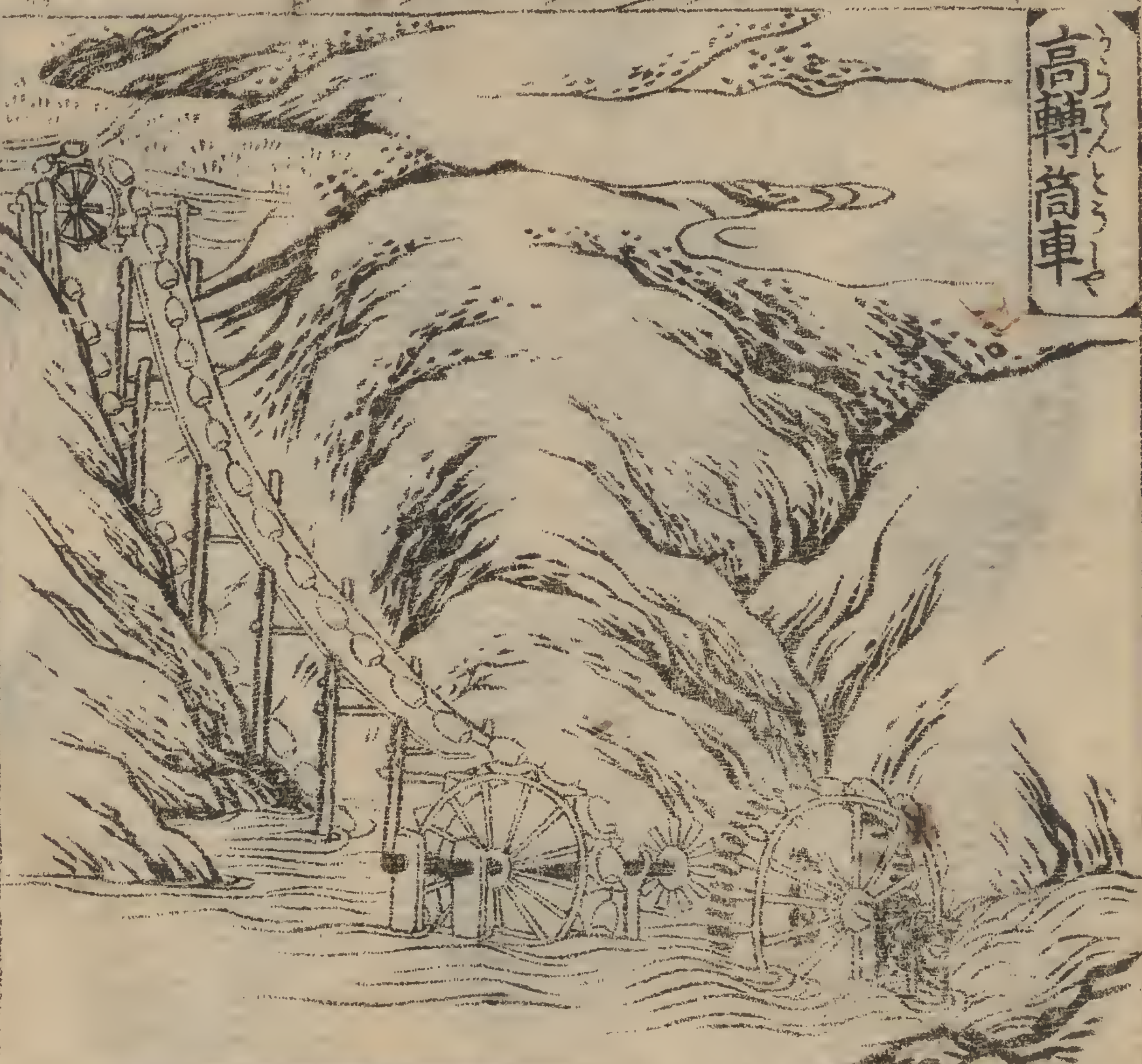
木筒

此制法ハ遠き水をとるに用ゆ竹筒をつき連ていかほども水を引べし

架槽

此ことも上の木筒と同じ只槽と筒とのちがひのみ

高転筒車



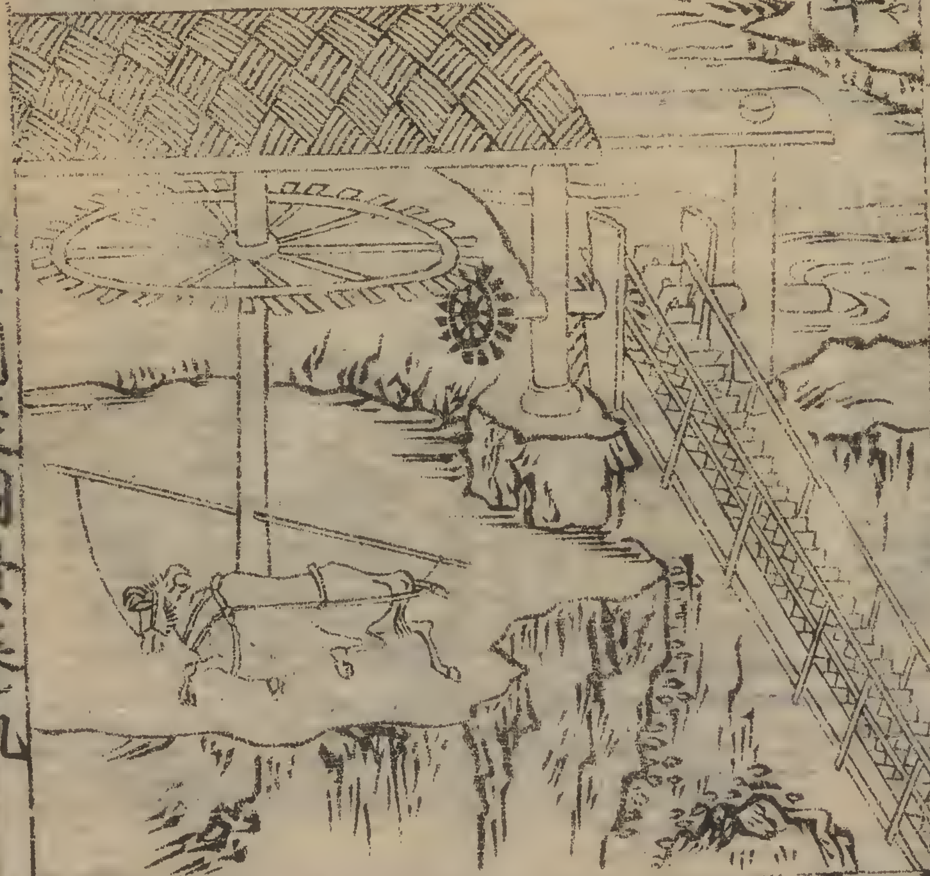
車のたかさ十丈を準とし上下に木を架し各輪を竪つ下の輪半水の内にわたり輪の径四尺輪の周の両傍に紐しその所を槽のごとくして筒索をうくるし索筒の一尺輪の大小によるべし此制ハうきくよく水をおくらし人ありて轉す時ハ止水をいるゝ所とるべし

水転翻車

此制も流水の岸邊にひとつの轂をわりて水をとる又車の軸と入て輪すへし人力をかくるに

牛転水車

流水なきところにハ水轉翻車の制に同しく人力を省て畜力を以て功を速にすべし



筒輪

驟轉筒車に轉軸の外端別に竪輪をつけ竪輪の側岸上に臥輪を置凡坎井積水をくむべし

刮車

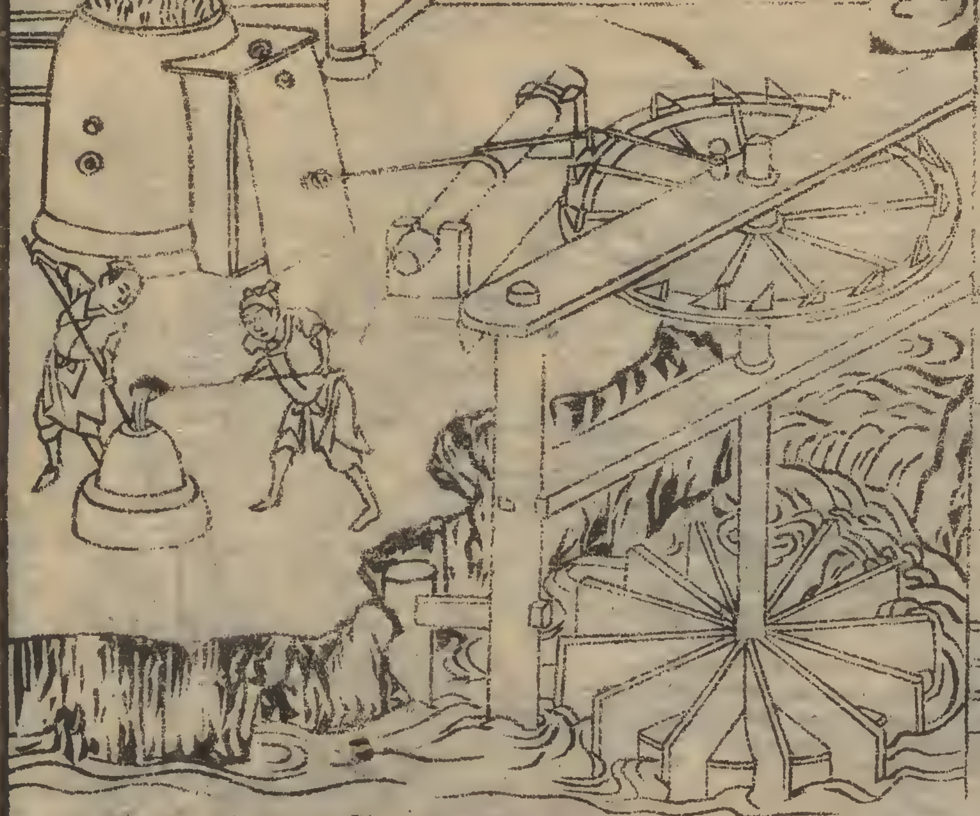
此制ハ岸下の水を高き田へとるにハ必ず此を用へし

水打蘿

此具ハ水ニ随て用ゆ麺を篩て今の人ぜうずす機巧下の水排と同し

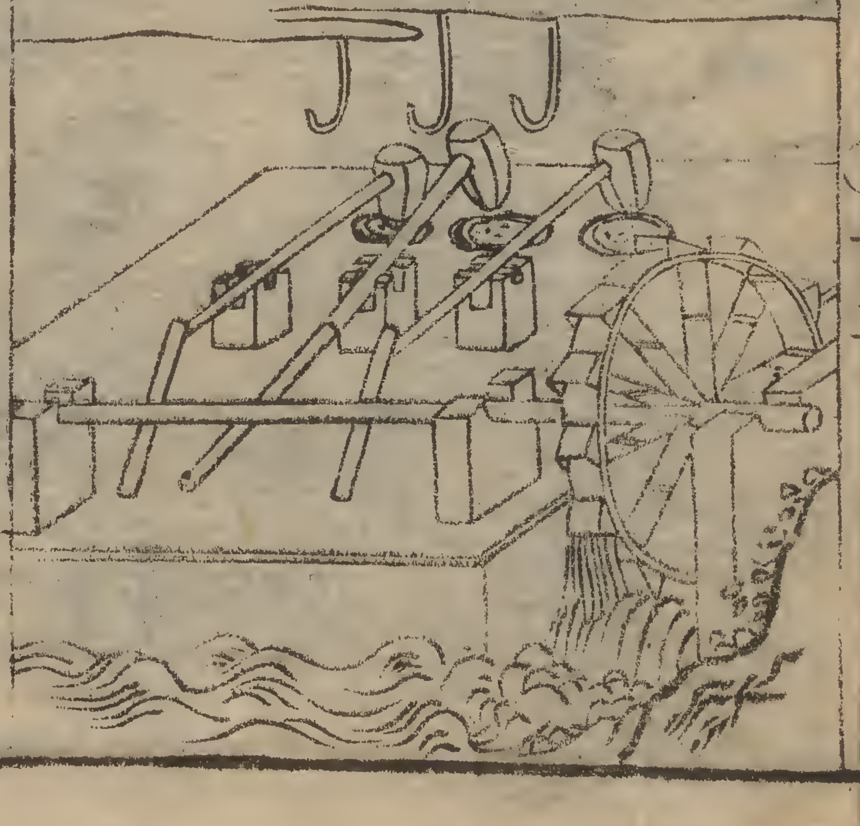
水排

水勢にて火を吹しむ水たらし制ハ図にて知るへし

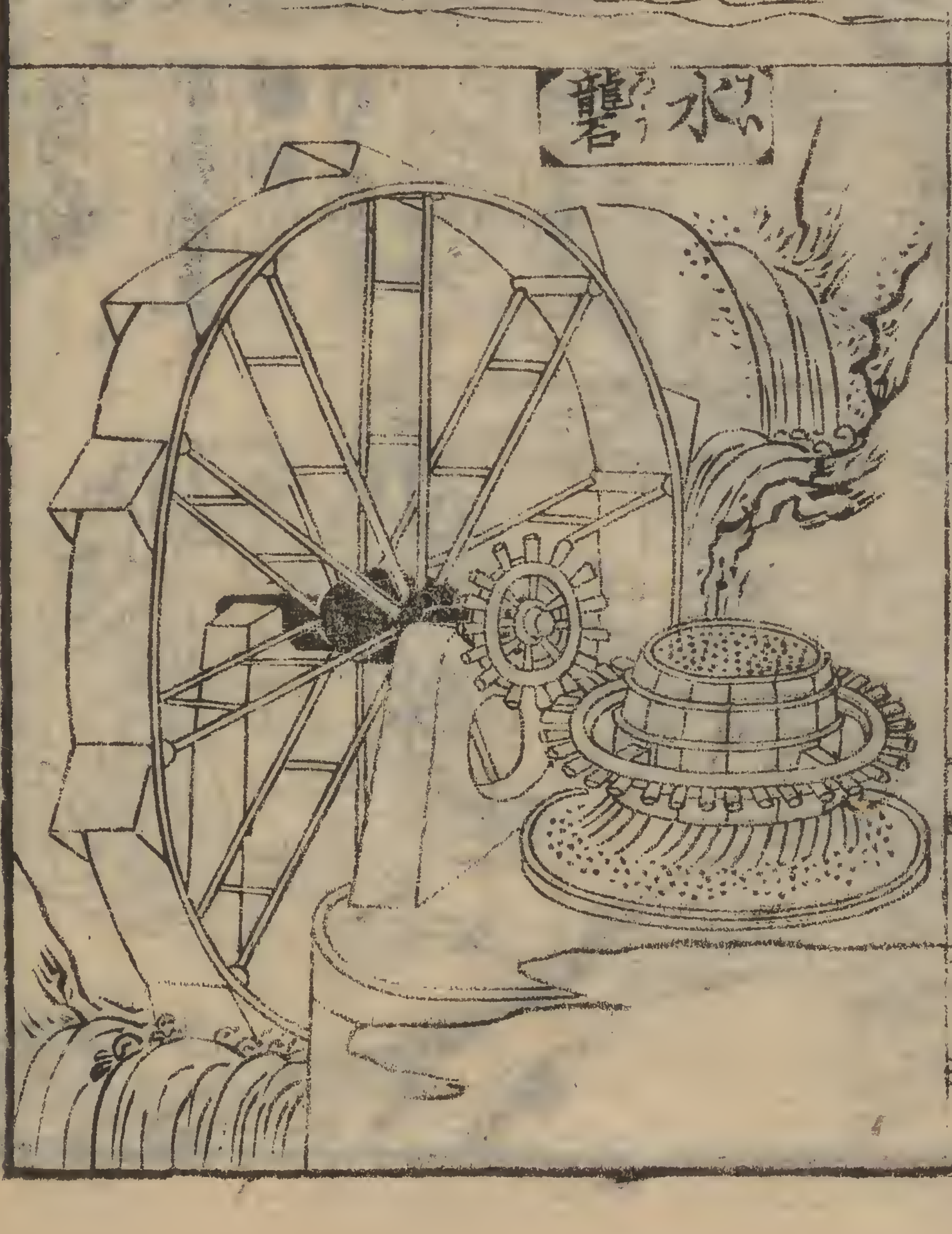


水碓

連機碓といふ水勢にてつくなりからうす也晋の石崇が家水碓三十區ありといふあまし

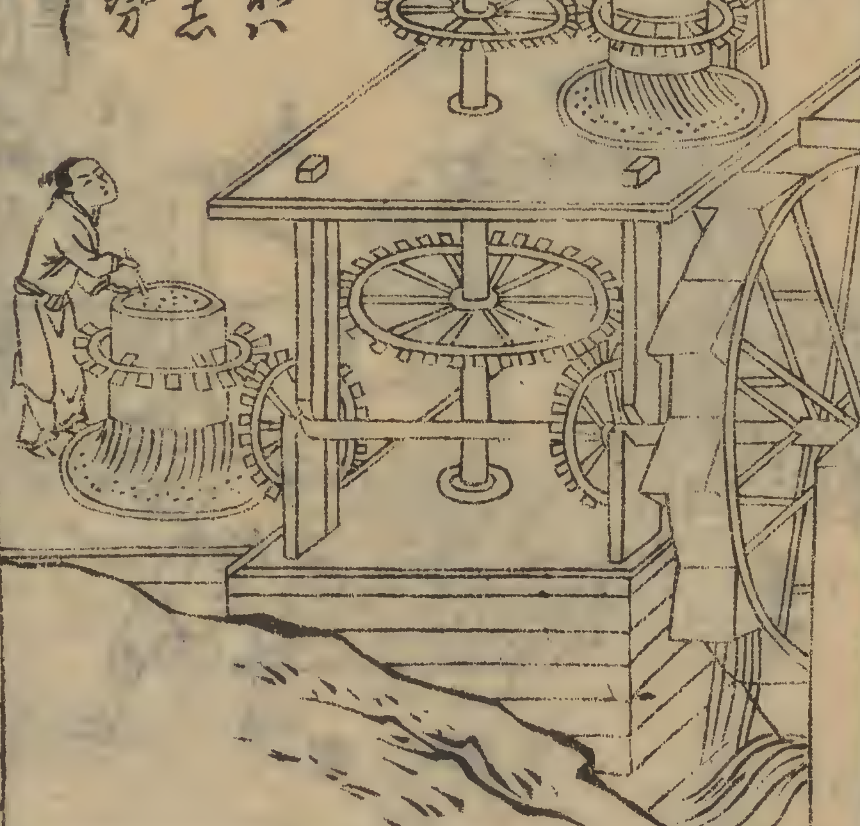


水礱



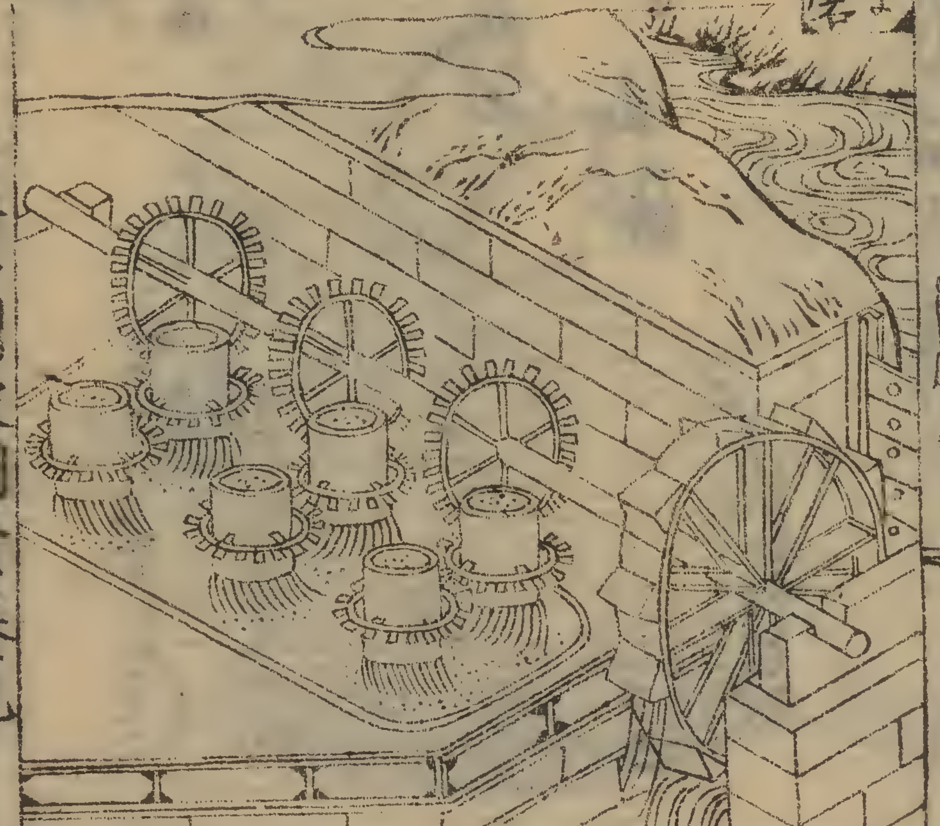
水磨

此磨ハ急流ハ激しき水を去りてその勢にて轉すべし



水轉連磨

此制陸轉連磨と同しこうくれ急流大水ニ用る故輪軸大にして合抱ほどにつくるへし輪のめぐり早のめし

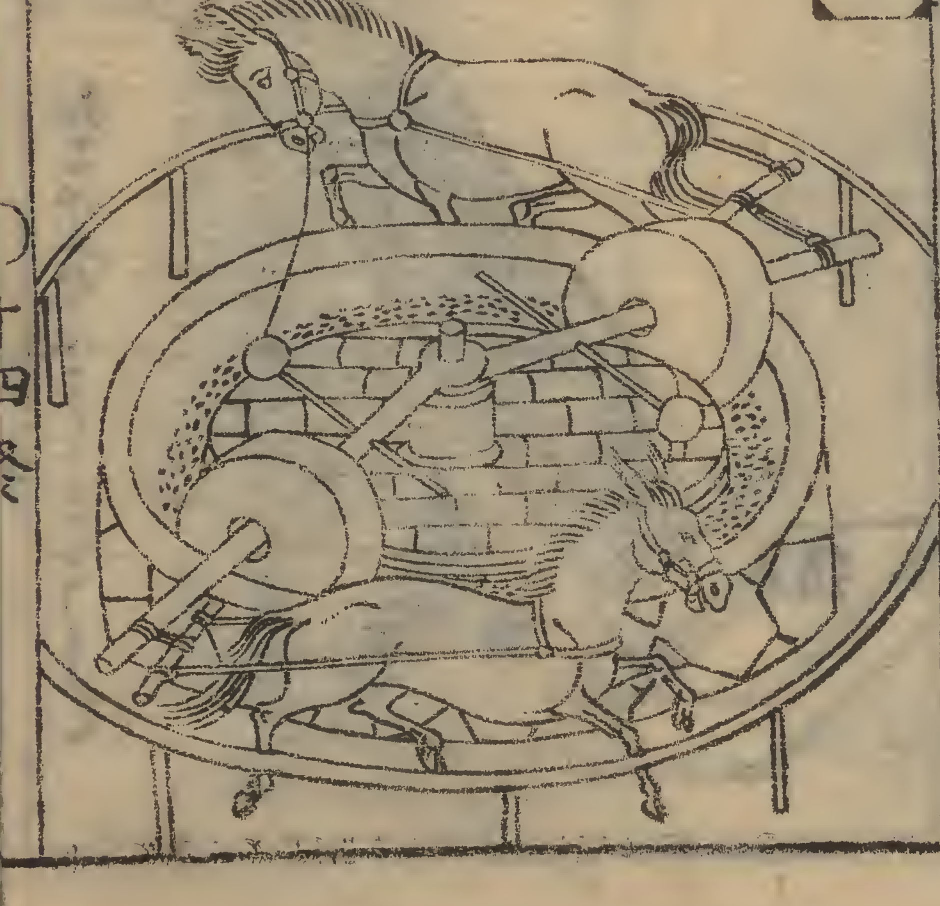


礱石圖

礱穀器穀殻を去器也竹を編むそゆりよろし馬に轢すれバ人力とつのやうぬし

石輾

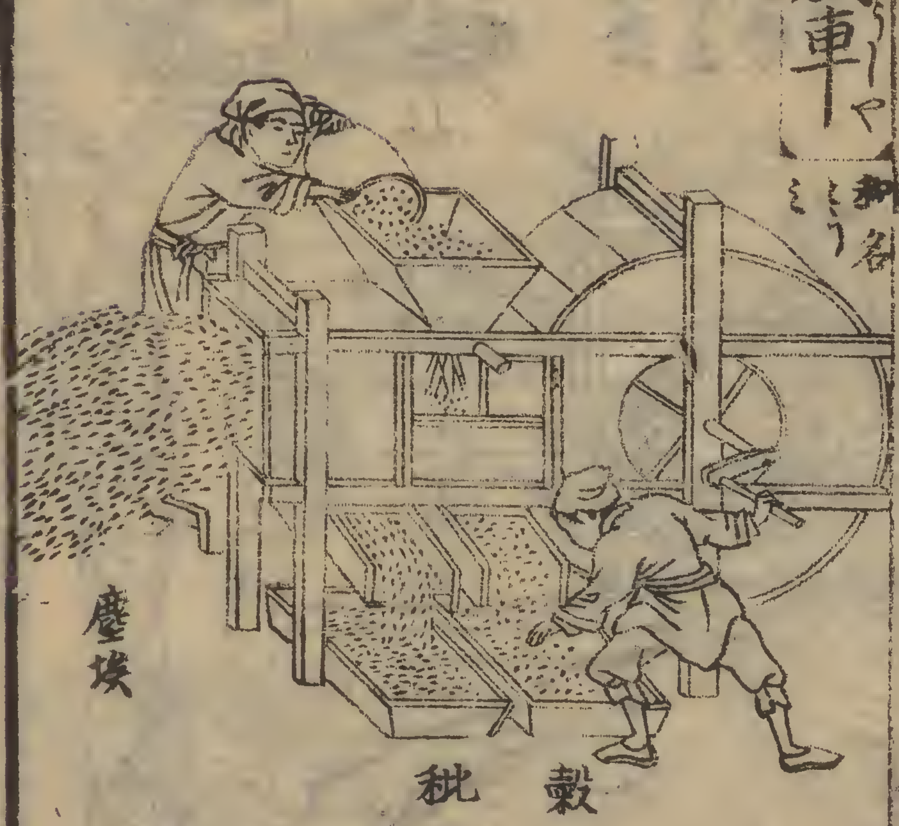
りとよりうすし礱を以つくり中に幹軸を立て石磑をつくるさおがの二磑お遊ふて畜力を用へし



海青輾（かいせいてん）

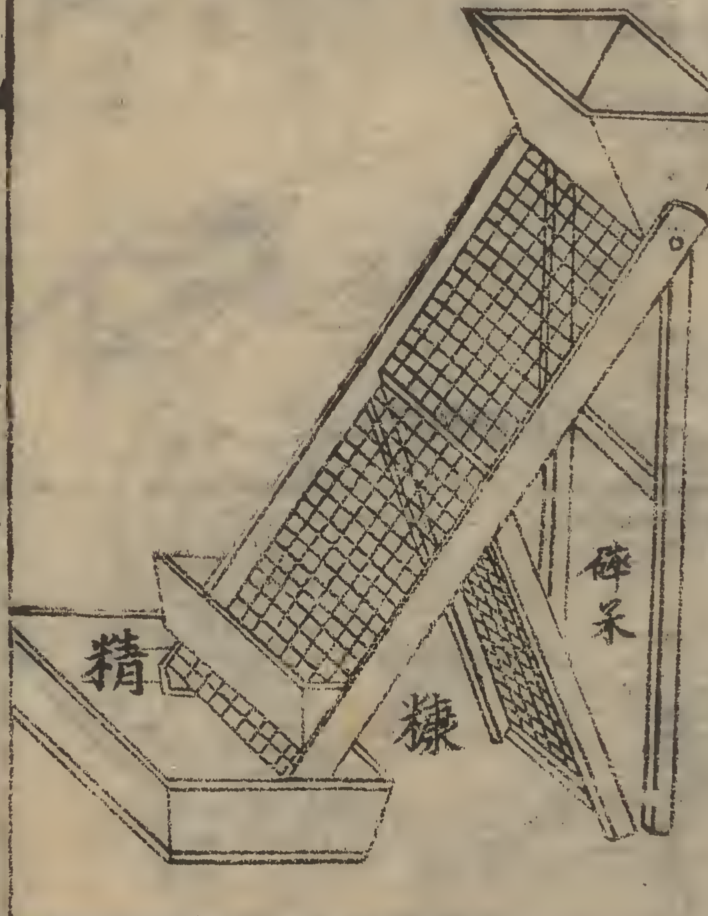
此名ハ鷙鳥（しつてう）の疾（すみやか）に比していへり

扇車風車（せんしやふうしや）　和名とうみ



颺風飛（やうふうひ）

和にいふせんこくとをし



儋（たん）

米を貯ふるうつはもの　漢書曰揚雄無儋石之儲　晉劉毅家無儋石之儲　應劭曰齊人名甖受二斛

唐土訓蒙圖彙巻之十　器用之四

衣服儀制珍寶

大裘（たいきう）

袞冕（こんべん）

鷩冕（へいべん）

毳冕（ぜいべん）

希冕

韋弁

爵弁

皮弁

玄端

侯伯鷩冕

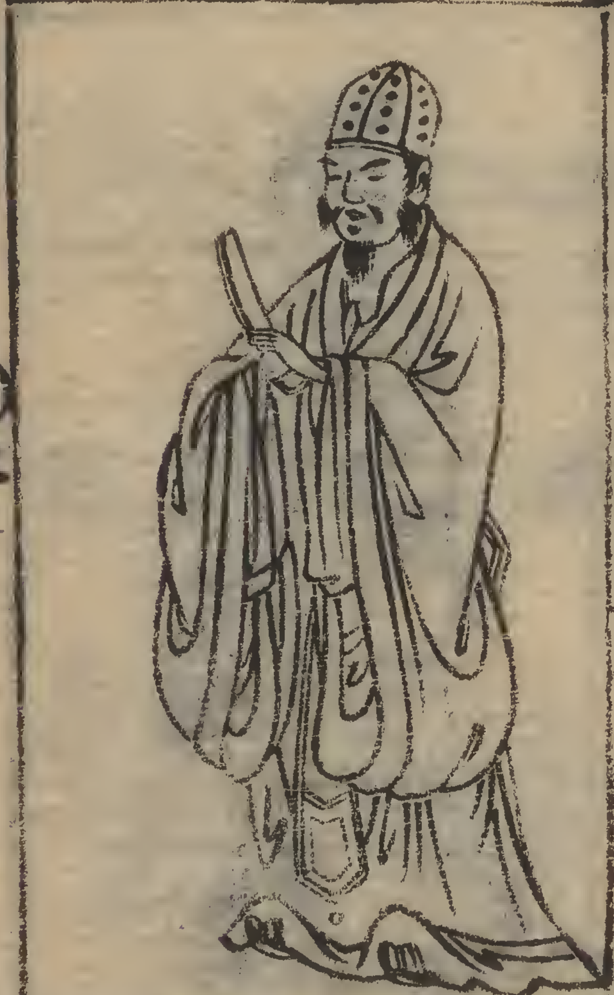
燕服

上公袞冕

卿大夫玄冕

子男毳冕

孤希冕

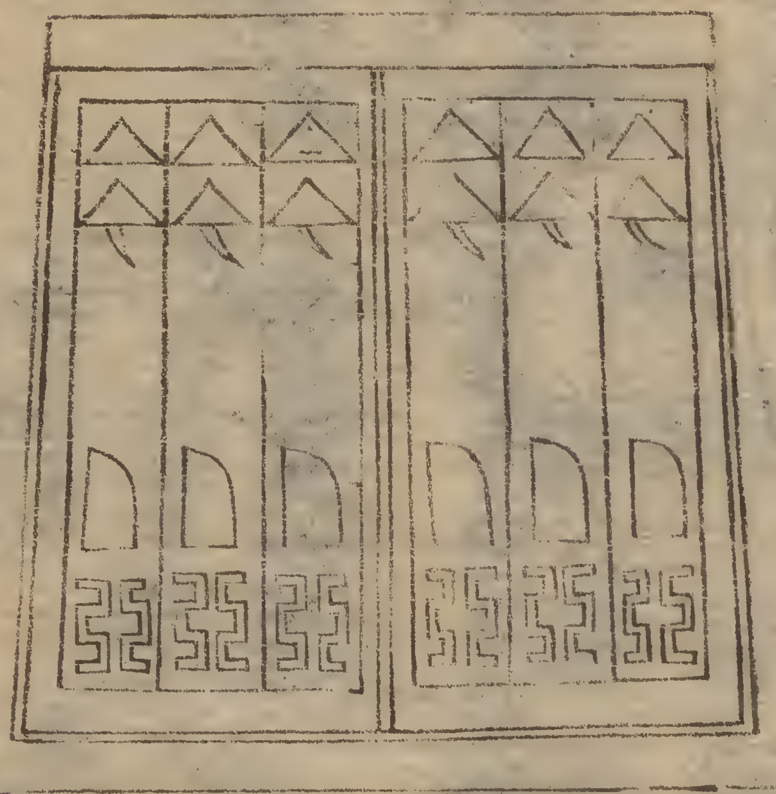

士皮弁

毋追
章甫
周冕
麻冕
綦弁
緇冠
漢冕
委貌
介幘冠
緇撮
皮弁
雀弁
臺笠
皮冠
五積冠
烏紗萬福巾
帷帽
面衣
幅巾
網巾
儒巾
大帽
諸葛巾
忠靖冠

揄狄 色青 桑の服
禕衣 色黒し 后先王を祭服
展衣 白色 王及賓客にまみゆる服
闕狄 色赤し 小祀の服
鞠衣 色黄なり 若桑と告る服
褖衣 黒色に 王にまみゆる服

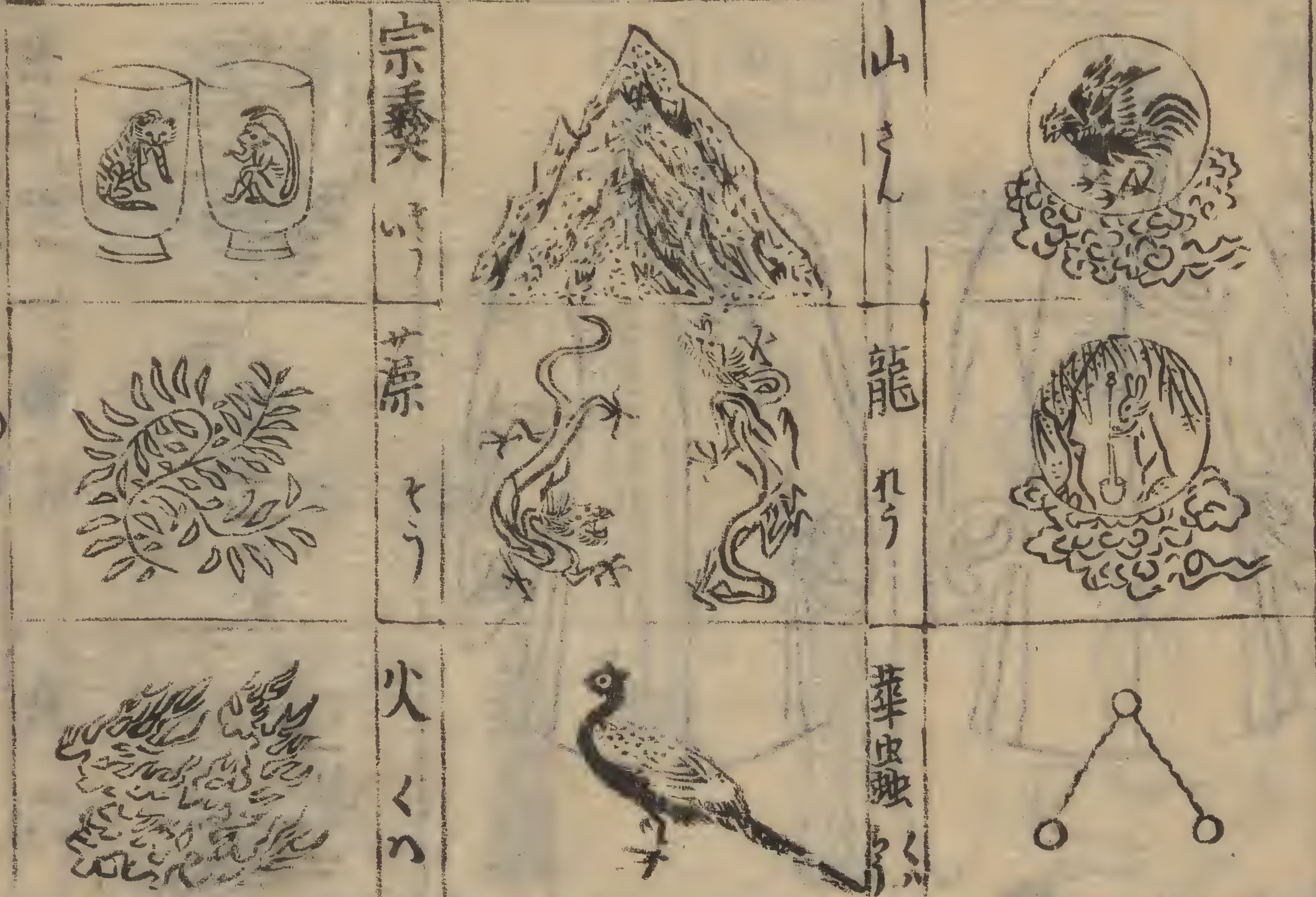
衣（い）うはぎ 上衣の服なり

裳 しも 下体のかざり

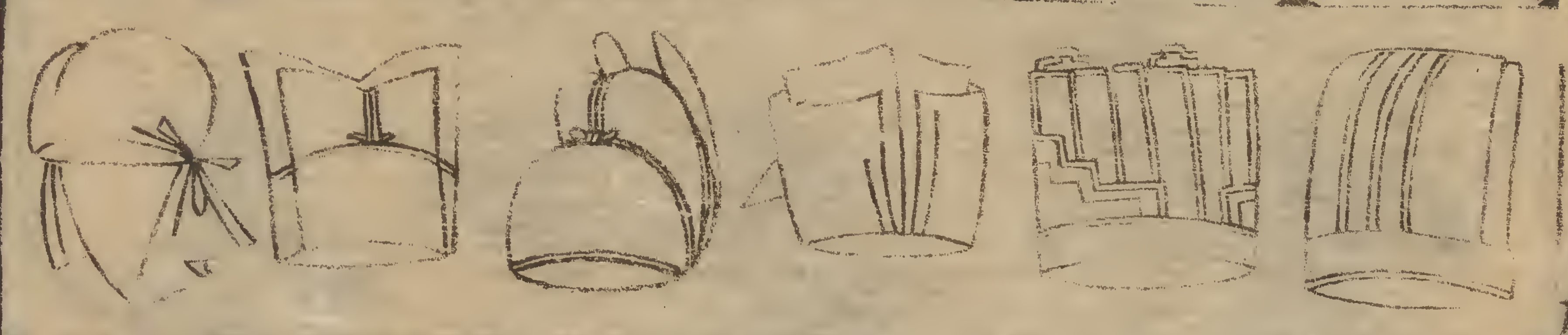


虞書十二章

日 じつ　月 げつ　星辰 しん　山 さん　龍 れう　華蟲 くわちう　宗彝 そうい　藻 さう　火 くわ



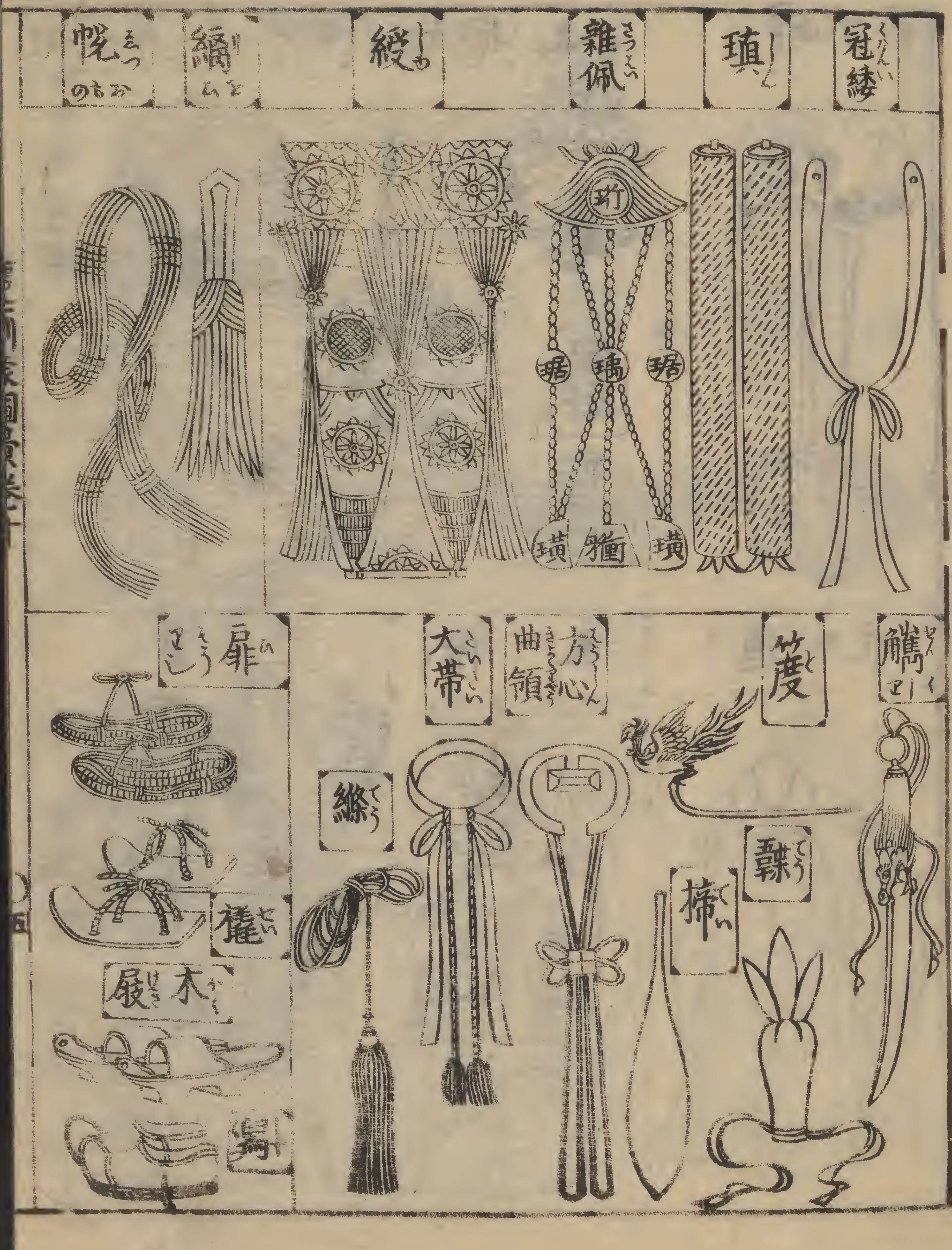
治五巾　雲巾　東坡巾　紗帽　漢巾　四周巾



純陽巾　老人巾　将巾　結巾　鳳翅盔　毡鷺盔

金貂巾　纓粽帽　束髪冠　三山帽　氈笠　韃帽

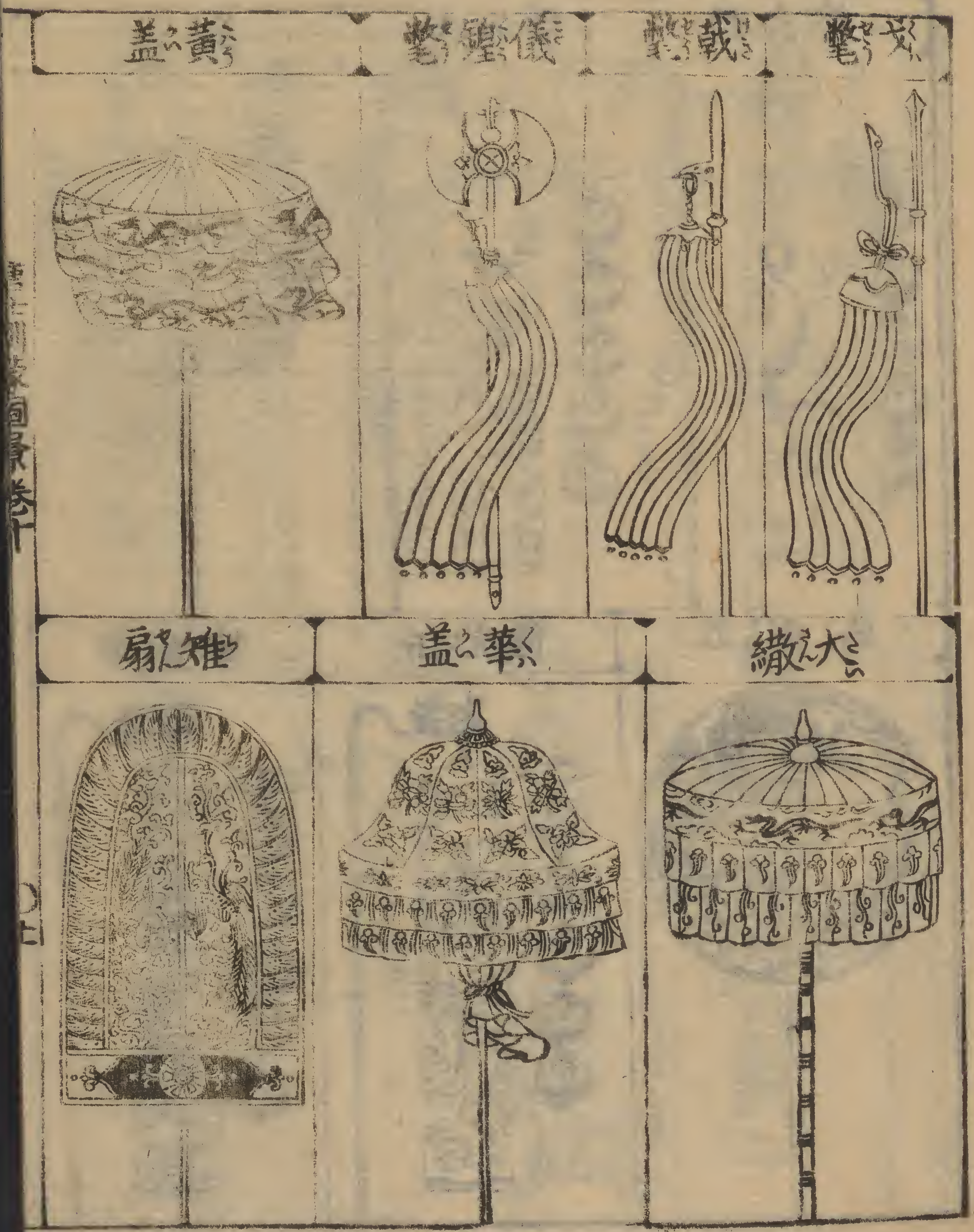
雷巾　道冠　僧帽　芙蓉帽　吏巾　皂隷巾


冠緌
瑱
雜佩
綬
帨
方心曲領
大帯
木屐

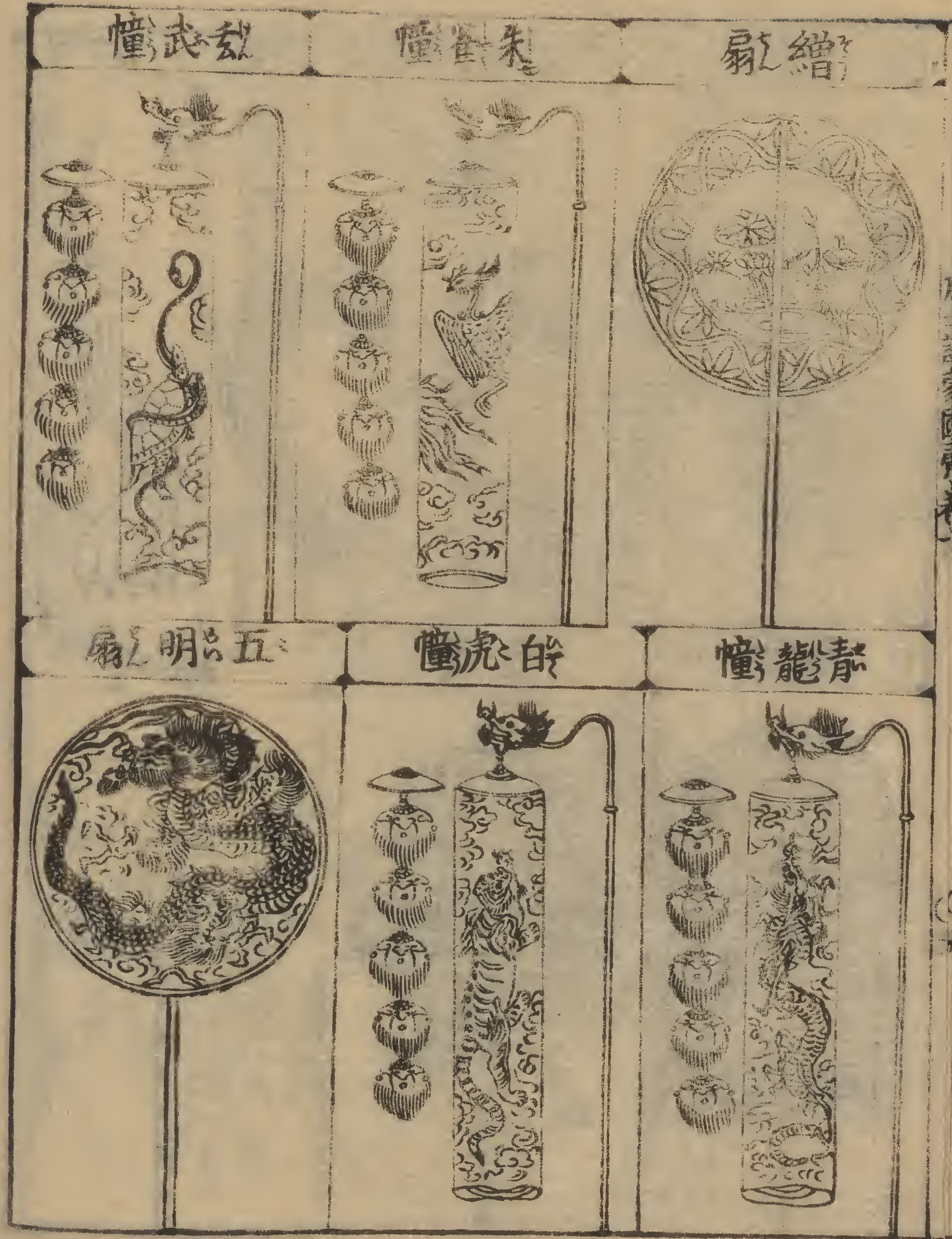
九罭袞衣圖
天子の衣
九罭繡裳圖
服章圖
粉米
黼
黻
狐裘
羔裘

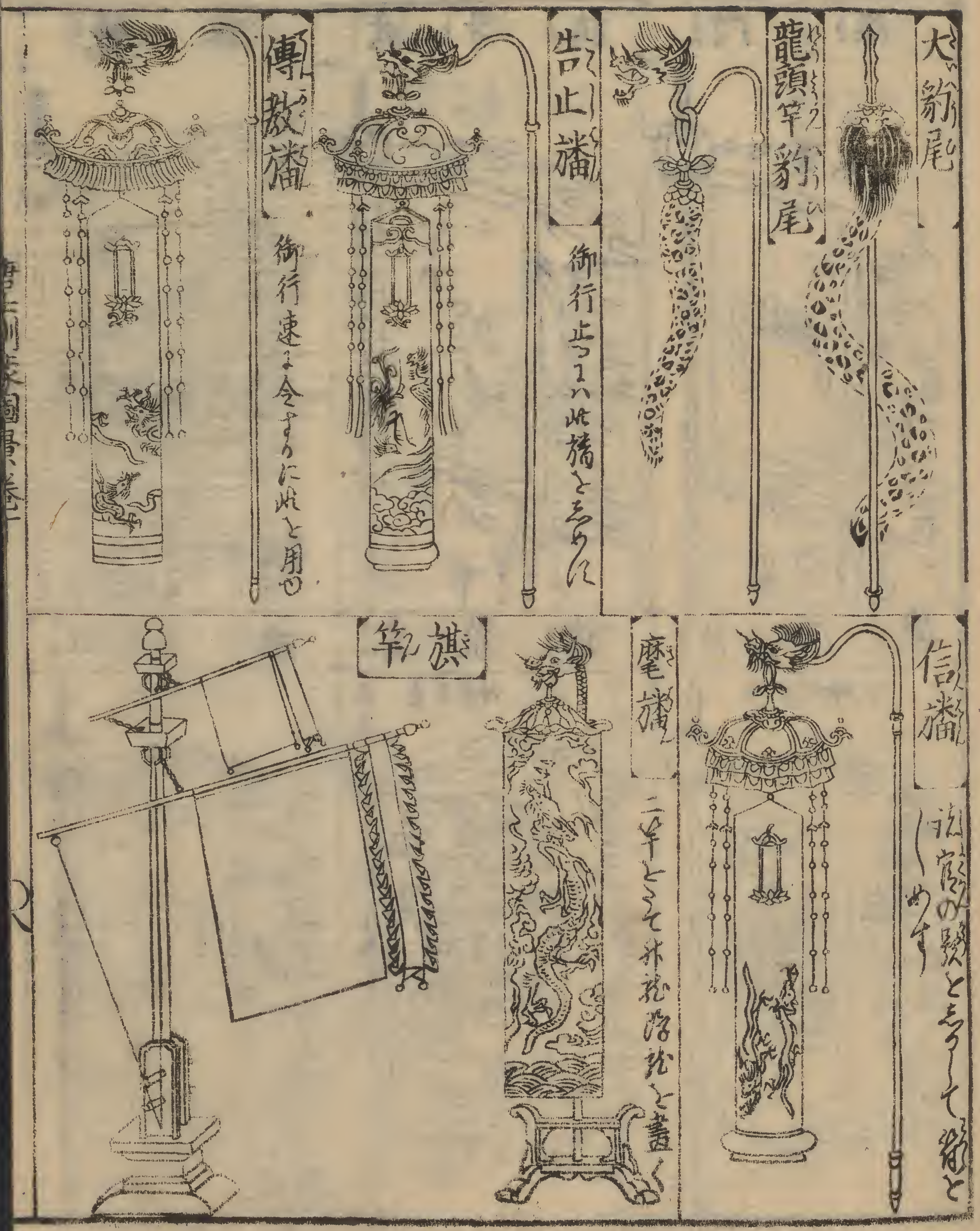
人甲
頭鍪
頭項身甲
粤兵盔甲式
掩膊
馬甲
面簾
鷄項
馬身甲
盪胸
搭後
半面簾

內外命婦冠服
冠
釵
面花
兩博鬢
滿冠
鐶
髻
霞帔
僧衣
道衣
釧
指鐶
福壽


戈氅
戟氅
儀鍠氅
黄蓋
大繖
華蓋
雉扇

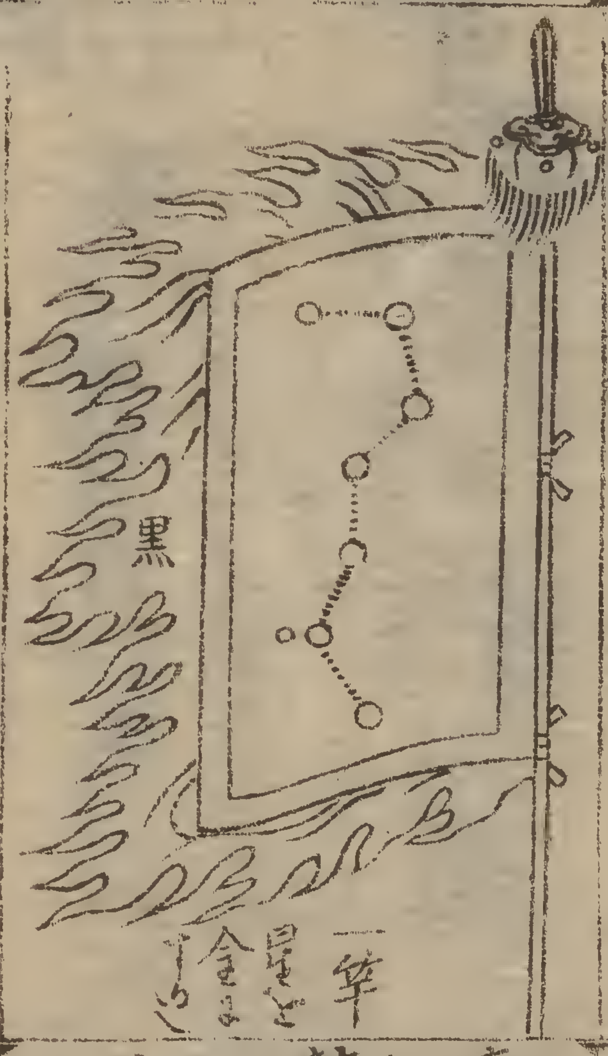
虎豹
天子の九重門虎豹としてまもらしむ又厳密の為とゝこれ上帝乃ゆふへとゝまる元朝の制天子出る時あまらし虎豹を出精用華門の外にうつして明朝も同じ虎豹を各園檻に用てこれを入て奉天門外にうつしおく
馴象
晋の武帝の時南越より献ずそれより宋元明の代にこれをうへしむ明朝にはこれを奉天門の外にうつしおくなり
仗馬
漢よりこのかた天子の出るとき引てゆくなり
仗六騎 兵衛


繒扇
朱雀幢
玄武幢
青龍幢
白虎幢
五明扇

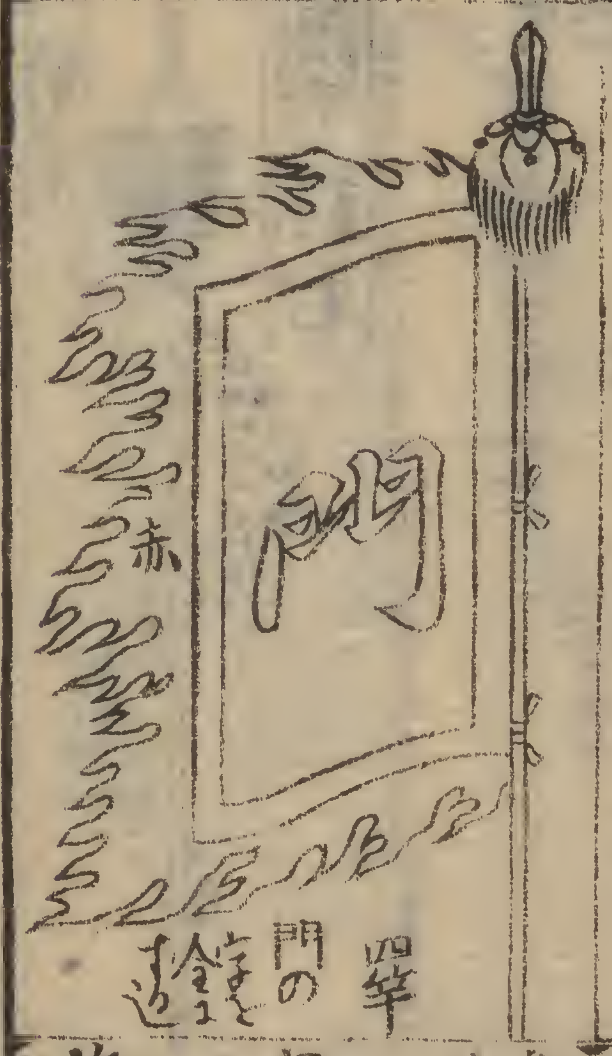

大豹尾
龍頭竿豹尾
告止旛
御行止るニハ此旛をたつる
傳教旛
御行速ニ令するに此を用ゆ
信旛
諸官の號とちうして符としめす
麾旛
二字として升龍降龍を畫く
旗竿

龍旗

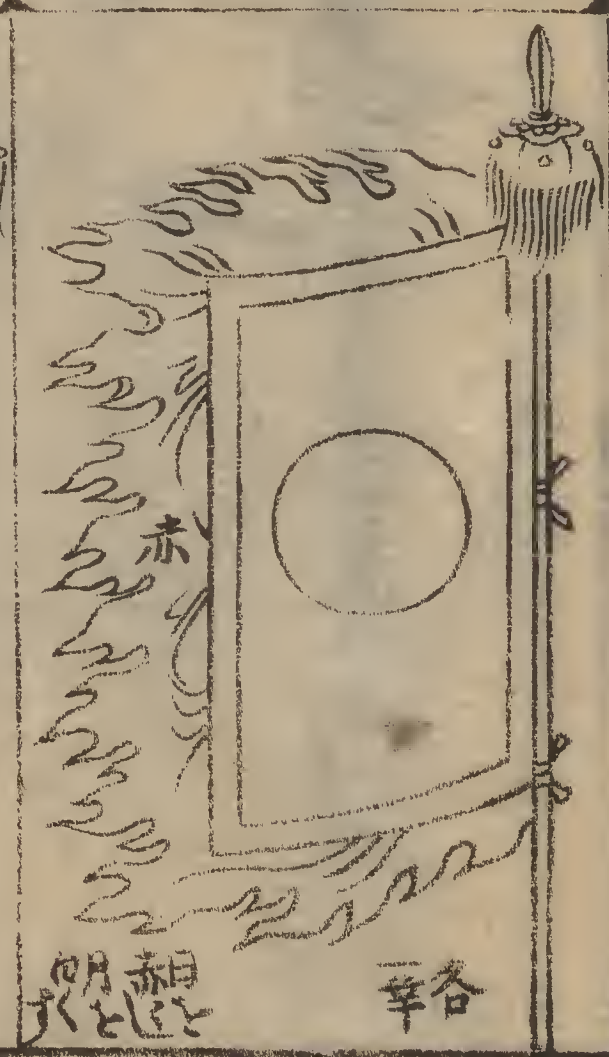
北斗旗



門旗



日月旗



青龍旗

白虎旗

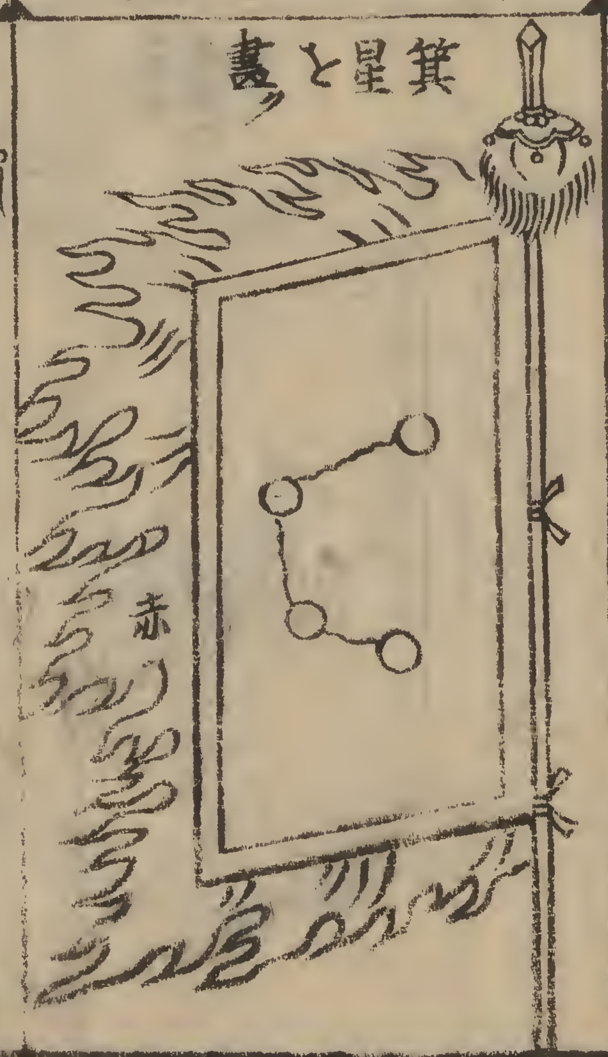
朱雀旗

玄武旗

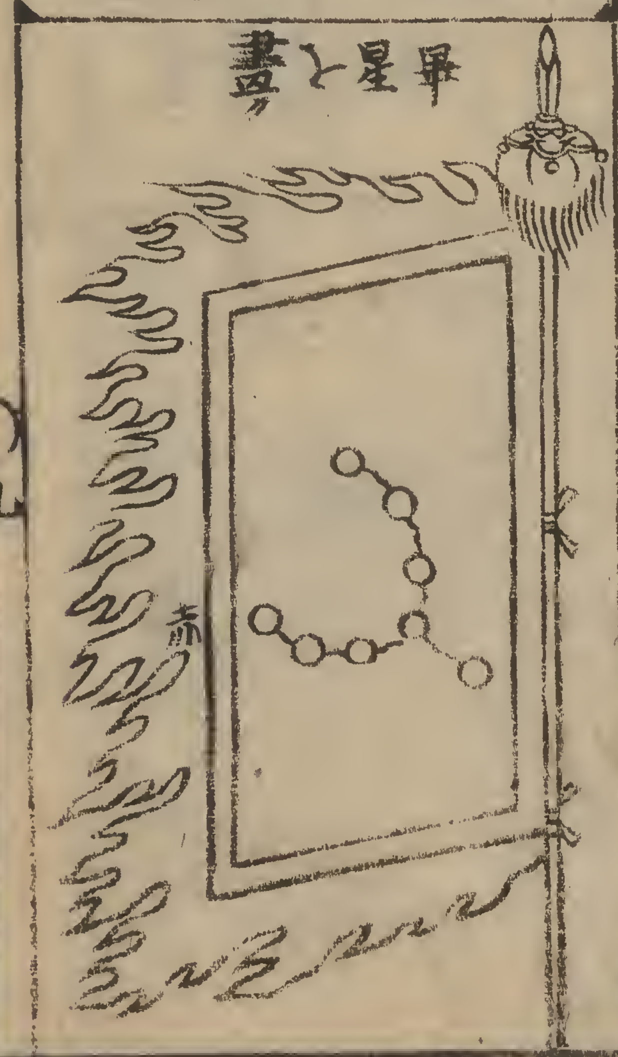
雲旗

雷旗

風旗



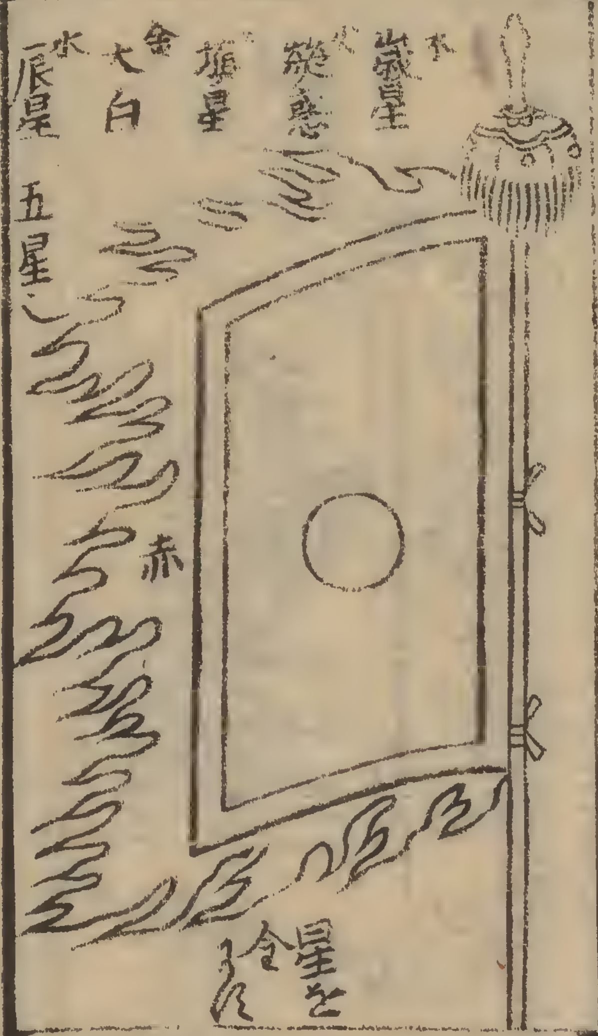
雨旗



四瀆旗

五嶽旗

五星旗



天祿旗

天馬旗

白澤旗

熊旗

羆旗

鸞旗

麟旗

方相魌頭

方相者防喪也自黃帝始俗號險道神周礼有方相氏大喪先匶及墓入壙以戈擊四隅敺方良故葬家以方相先驰宋朝喪葬令有方相魌頭之别四品已上其品所當用而世以四目為方相兩目為魌頭按漢世逐疫用魌頭亦方相之比也

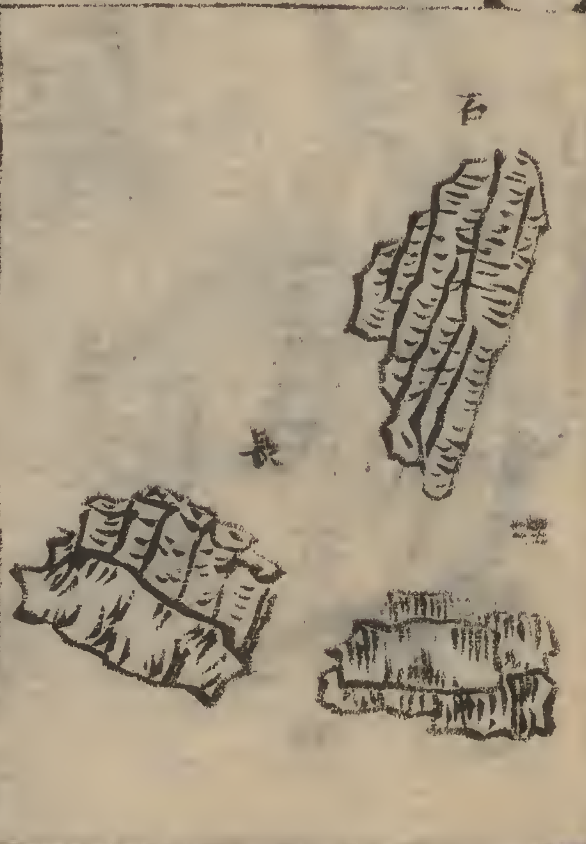
珍寶

密陀僧（みつだそう）
波斯國に出ッ形黄ハ龍齒に似てかろし色（いろ）紅紫（こうし）の孔乃蜂窠（はちのす）なり

菩薩石（ぼさつせき）
峨眉山に出こまた瑩白日中にこれを照ハ佛頂圓光のかくにあり灠ハ六稜ありて蠟のごとし

白石英（はくせきえい）
大さ指の如く長二三寸六面削ごとし白くすきとほりて光あり 黄赤青黒の五英あり又一種紫色ともうろ英あり

石膏（せきかう） 一名寒水石
軟硬の二種あり
理石ハ石膏の一種類のよく似て硬きもの長石も種し



方解石（はうかいせき）
長石の類にしてうすく片々とに砕るゝゆへ方石よりちいさきものなり石膏の類也

不灰木（ふくわいぼく）
色白く石の類也形爛木の如くにして焼ても灰ならず又一種膠にして出つる葉菖蒲草のごとく叢生して燧とはうまで一夜経て二三すと焼のこる

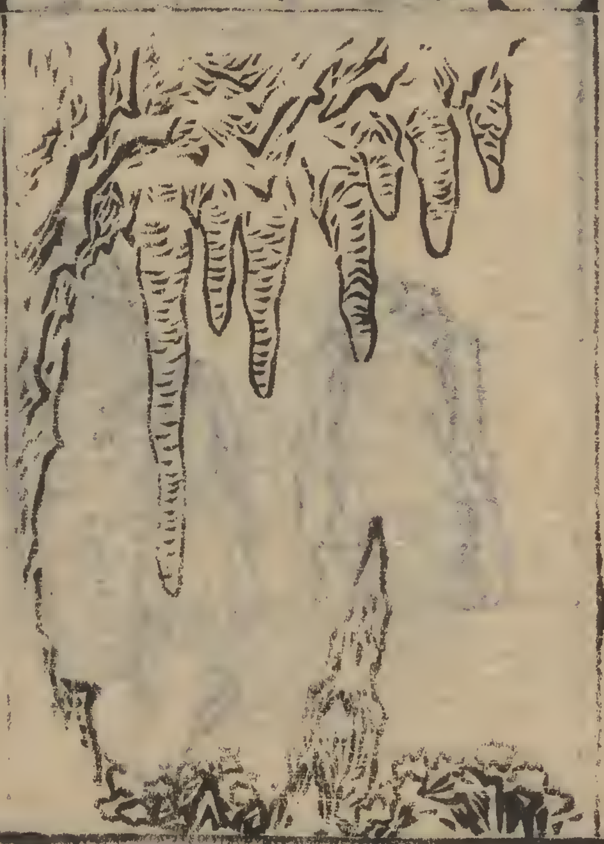
無名異（むみやうい）
石とはかへり状ハ炭のことし黄人紙とこれを餘る○本邦にあるものハ玄米麁（あら）なり

井泉石（せいせんせき）
饒陽郡又深州城東出川田野の泥土の中に有これを採り國方を經過くるべし

蜜栗子（みつりつし）
無名異の類也状蟹の殻のことく紋あり二十有余かくの如くあれど蟹に似て堅きものなり

石鍾乳（せきしようにう）
石の津液のあつまりて乳と成り滴溜て石となれり○本邦石窟より出る事あり

土殷孽（どいんげつ）
石鍾乳乃類にして土穴に生じて形も亦似たり土の脂液なり



禹餘糧（うよりやう）
形牛黄のごとく中に黄細末あり蒲黄の如し池沢又山谷に生ずる者あり

空青(くうせい)
昔まで一切の
おる石今の
紺青をいふ
空青といへ
○扁青まりくと
いふハ紅色
まそういふ
毒を用ゆ

礜石(よせき)
毒石ハ鉛器
あり白礜石
蒼礜石紫礜
紅礜石桃花
金精銀精
特生礜石
これハ形あり
鼠を殺すなど
いふなるし

金牙石(きんげ)
蜀漢にいふ
このこ金色
ありて大さ碁
石のごとし方
あり

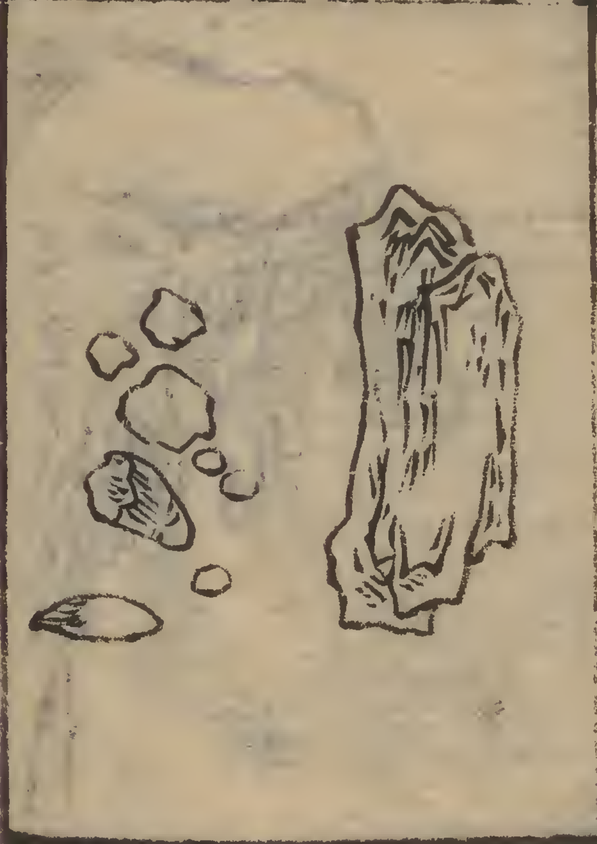
婆娑石(ばさせき)
海南に出る
五色ある軍崎(そんぎ)
にて和名編石
形をきみよきてあ
時は砒石(ひせき)と化(なり)て
鼠(ねずみ)にゆる形美
光沢の如し

青礞石(せいもうせき)
青白二種あり
まさしと佳とれ
るれハ中に星
あるし

花乳石(くわにうせき)
陸石にて色
あり丹砂に
似るへし

白羊石(はくやうせき)
冰と堅くてる
白礬とおなし

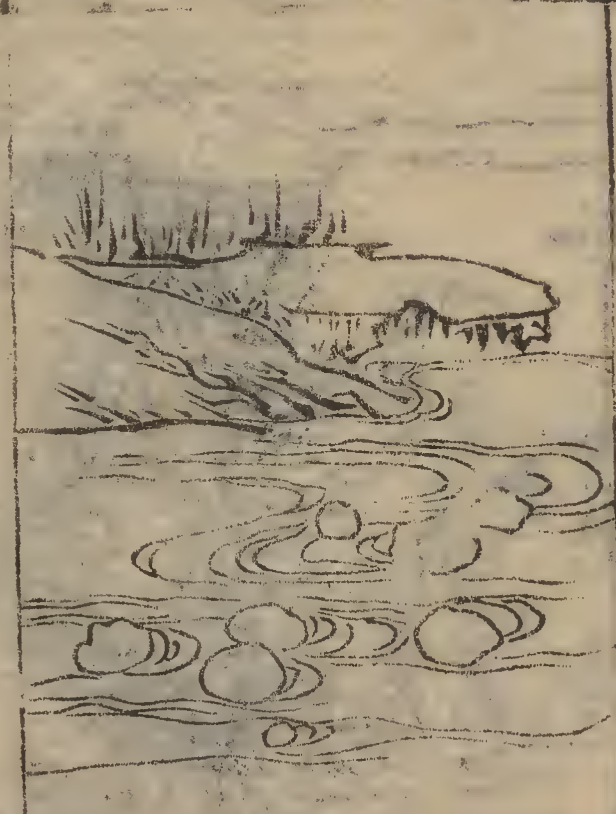
金剛石(こんがう)
西番天竺に
出づ紫石英
に似て光
金剛と称す
べし



薑石(けうせき)
土石の間に
生じ状姜
のごとし

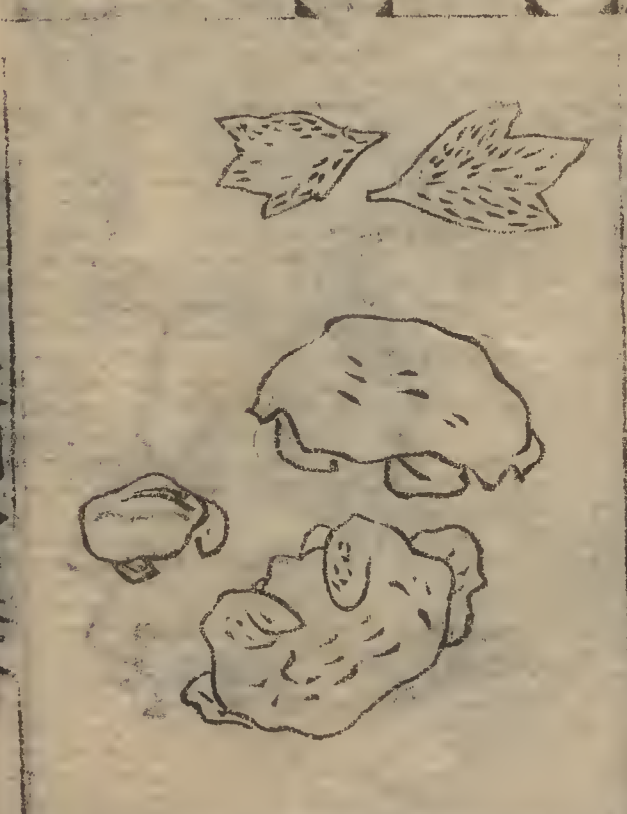
蓼飯石(たくはんせき)
山漢の澗中に
あり青飯を
まろめたる如し

水中白石(すいちうはくせき)
山谷の澗間の
水中にある石
昔人これを煮
て糧とする法
ありといふを
用ゆへし
といふ

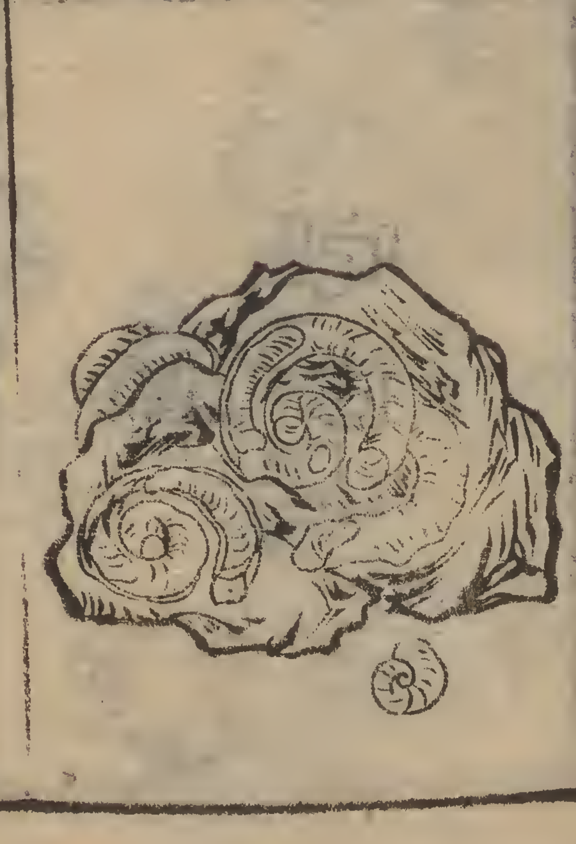


石燕(せきえん)
燕に類して
文ある石なし

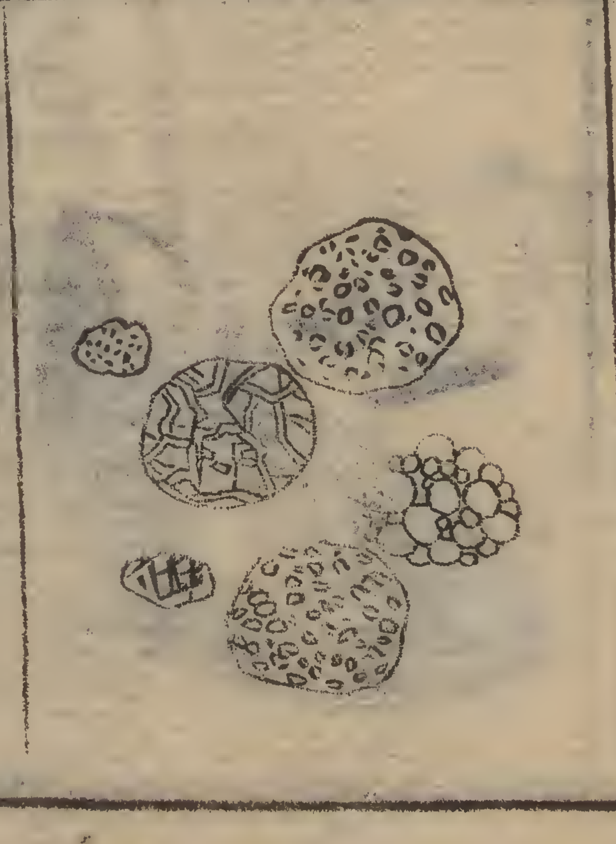
石蟹(せきかい)
蟹に類する
石なし寒水に
入て蟹のかた
ちをなし



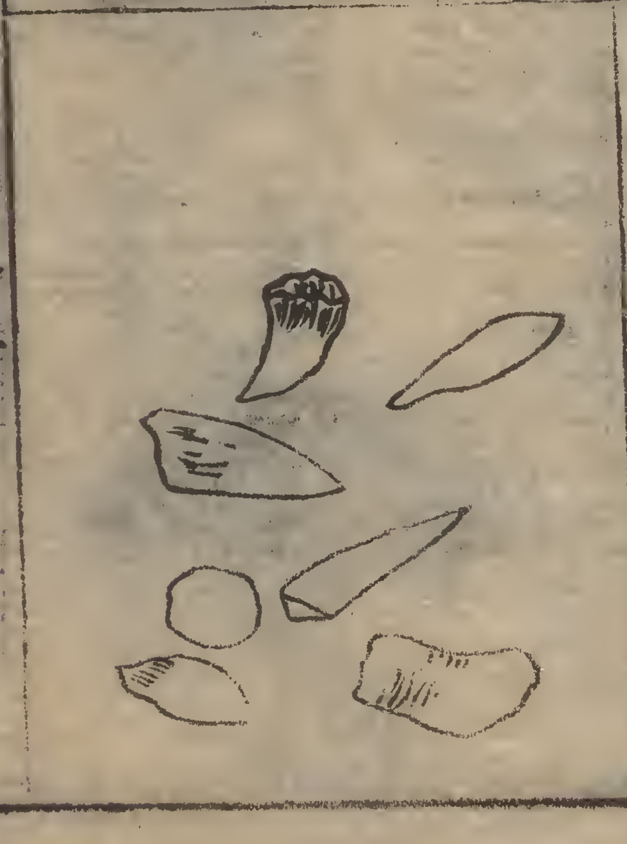
石蛇(せきじや)
石間に出て
其形盤屈
して蛇のごとし
内空にて紫
色なる物あり
と云へり
石蟹(せきかい)も同し
類にてかたち
これの如し
類なるかたち
あるのごとし



蛇黄(じやくわう)
嶺南より出づ
蛇蟄する時に
口に含む石を
いふなりといふ



霹靂碪(へきれきちん)
雷震(らいしん)の際
とぶれて是を
うるし斧(をの)の
如く楔(くさび)のごとく
なるあり
和の関東にも
まも矢の根と
出る石に是し



硇砂

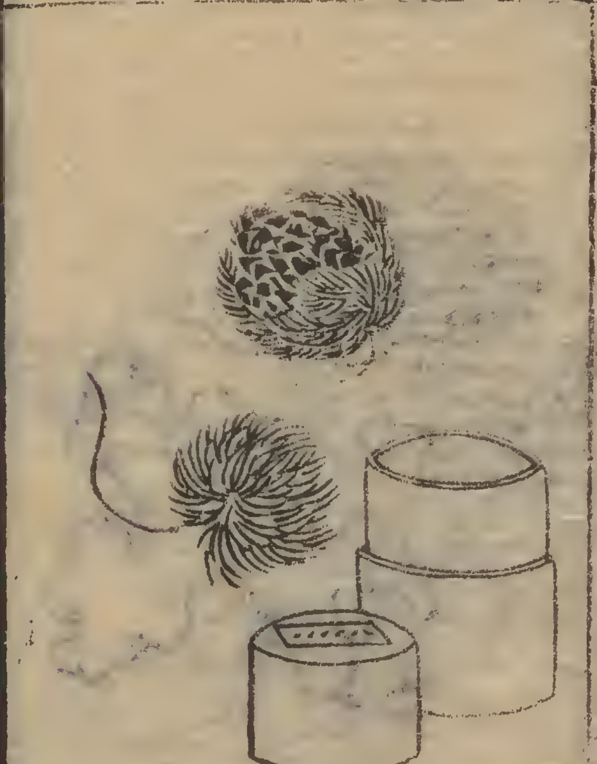
消石の熟して腐んなるにて鹹味あり鹽の屬なり白きものを上とす

凝水石

色ハ雲母の如く塩の精にて山谷の陰に生し折て水に投れハ水の色のごとくなれ

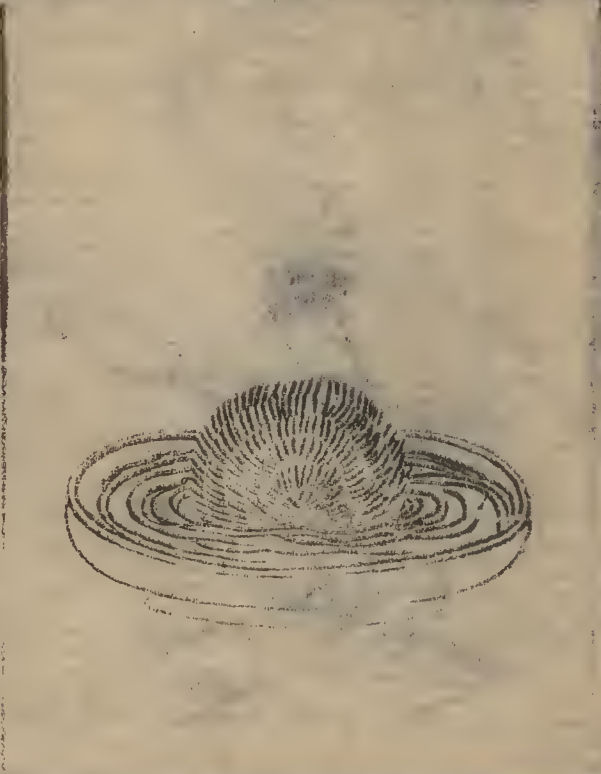
當門子

そのくさち麻のごとくつぶくとうくまるくしておし黄にしてかうとふなひてよまりなる物とあり



牛黄

牛に黄ある者身上夜光あり眼血のごとし又鳴吼又好て水を照し人盆に水を盛て牛を待ちに唱迫して水の中に吐おとす



熊膽

諸獸の膽にわれたるに及ものなし

戎鹽

胡國の河崖山坂の陰土に生ずるもの也光明塩も一種にして水晶の如し

井塩

塩ハ海と井にして井の鹵をとりこれを煮て塩とす

池塩

河東安邑の池に出る池の塩とす

石塩

胡地に生る石の塩なり

石炭

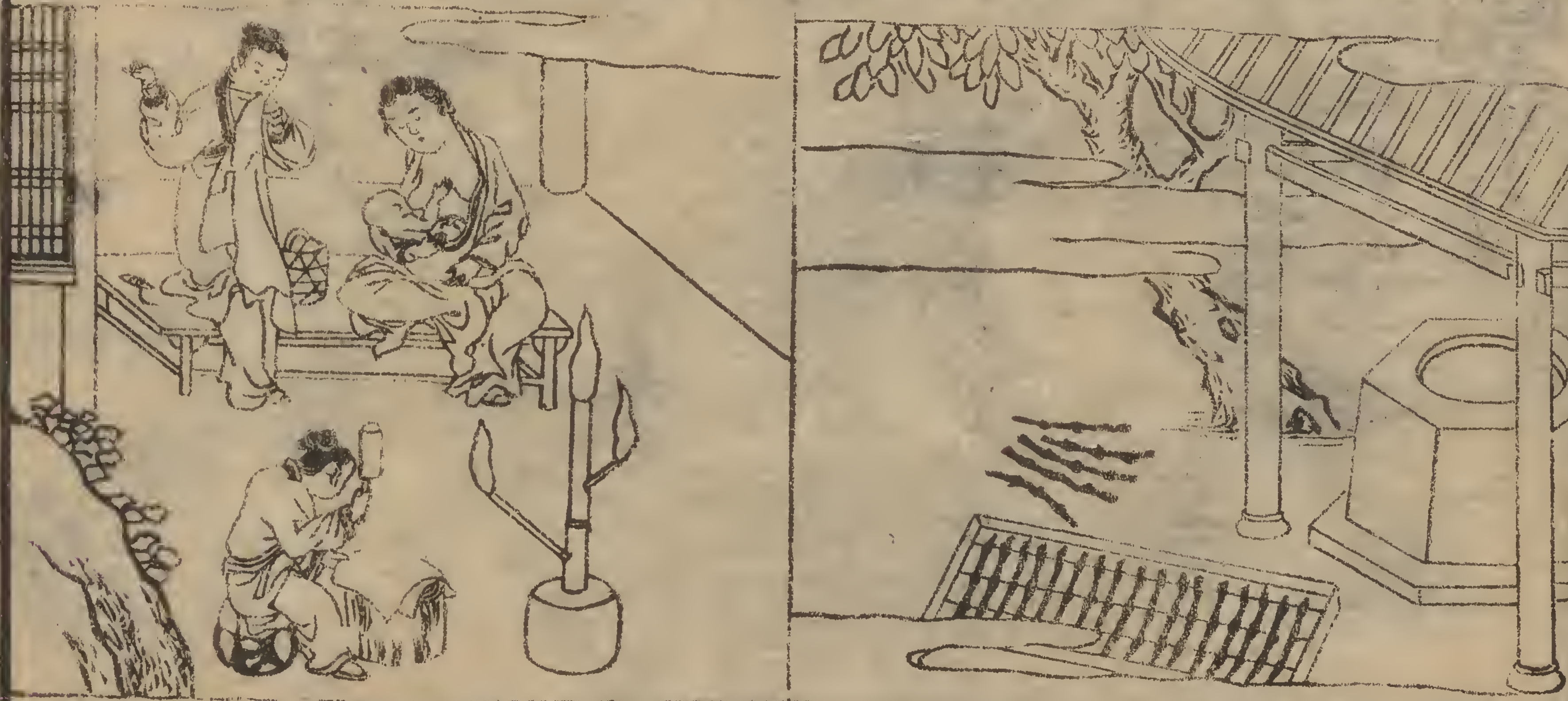
山にうかちてとるもの也

膠井

鄆わ阿縣城北の井水を以て煮て眞とれ甚貴しからなあ其の眞膠とれ難し黄明膠ハ牛皮を以てつくるなり濃こうれさとの上とれ

火井

蜀の西に多しそのごとく油道同○本邦越後加津音村といふ所よりよくもゆる民人の家の竈にあつけて其外の火にかへてつかひまわるとうそれを竹の切口よりけむを出す陰火にこれの炎のとし



油井

石脳油にふろより油まつ出てそれのうすとくにくるし所より出○本邦越後國に出て草水の油といふ是も家にもち燈の油泡乃やくるる石をかくまとひてすてつけに桶くへの桶の底に穴を明て水をぬくしヲランダの土油しる也なり

花紋石

南平縣に出色ありて文ハ山水禽魚の状あり○本邦にめいろの類多し或ハ木紫のうちら或ハ雲きんの状さまくなど皆花紋石の類なり

唐土訓蒙圖彙巻之十一

艸 之上

草木

此部にハ山石芳蔓菜の類とことくのせて誌しれし

著 めどぎ

生高のごとくつかなる二三十より四五寸八茎こいふ秋むさく白むも多く咲ハ菜ハ茎と葉とあり

鉄掃箒 荒枝

聞ハ神草なり中にすれ一本二三十茎花ハ小組のごとく二三に入る蓍宿とすり例の長さの掛まで占ひに用る蒔こし

和名ハコロモ

和名メドハギ

著草ニアヤールフナカレ

吉祥草 水土

石上に植られ春に花へ下るを浮ると佳なりとしれ花ハ紫し其茎ひらく

美人蕉 そう

葉ハ蕉鉄のごとくそも連れかし色ハ丹のごとし中心一朶暁耳に生る

黄精 三月 苗生ス高さ二三尺 葉竹の如くしてひろし 高さも対すらぬあり 白き花をひらく子黍のごとく根生姜のごとし

萎蕤 葉 せばくして長く表白く裏青し 茎竹の如く葉の間に花をひらく沙参のごとく実を結ぶこと…せひの類し

柴胡 苗生 茎して甚香し 茎青紫にして葉竹に似たり 又蒿に似て短きものなり

黄芩 叢 生高一尺余 又独茎なるもあり 葉細長くあをた対し六月紫花を開く根知母のごとし

天麻 苗の初て出る芍薬のごとし 独茎を抽て直にして高二三尺 箭簳のごとし 故に赤箭ともいふ 茎赤し

薺苨 苗茎 都て人参に似て 葉小く根異なり 桔梗根に似て心なし 花紫又白あり

黄耆 叢 槐葉に似て尖り黄紫の花をひらく 小角をむすぶ 又蒺藜に似たるあり 根の長さ二三尺

人参 春苗 と生して三四月花さく細小にして紫白色 秋の後子を結ぶ 根人の形に似て神あり

玄参 春 苗を生じ茎紫色にして七月青碧花を開く 八月実を結び黒色なし

沙参 苗生 して一二尺 叢生し崖壁の間にあり 葉枸杞に似て又牙あり 七月紫花を開く

丹参 苗生 して高一尺余 茎幹方稜あり 薄荷のごとく毛あり 三月花をひらく紅紫色なり

紫参 苗長 して一二尺 茎青く細葉槐に似たり 又羊蹄に似たるもあり 五月花を開て白し 又紅紫の者もあり

拳参（けんじん） 葉ハ羊蹄（ようてい）に似て根ハ海鰕（かいか）に似て長し

杏参（きやうじん） 根ハ小薺（さいね）根に似たり

耳草（じそう） 苗生して高さ一二尺葉ハ槐（ゑんじゆ）の如く七月紫花を開く奈（な）に似たる子を結て角（かく）子をなせり

知母（ちも） 四月青き花を開く韮（きう）花の如し八月実をむすぶ根黄色菖蒲（しやうぶ）に似て柔（やはら）かし

貝母（ばいも） 葉ハ蕎麦（そば）に似て七月花を開く黄白色根貝（ばい）子をあつむるが如し故に名づく数種あり

前胡（ぜんこ） 春苗を生し青白色蒿（よもぎ）に似たり初め出る時白芽長三四寸甚香美し一種柴胡と當帰に似たるあり

升麻（しようま） 苗生して高さ二三尺許葉麻に似て三四月白き花をひらく白と黒あり大小二種あり小ハ園中にうへてよし

徐長卿（じよちやうけい） 一苗の高さ二三尺葉柳に似て細く尖る小花をひらきて尖り角兒（さや）をむすぶ根細辛（さいしん）に似て香気も同じ

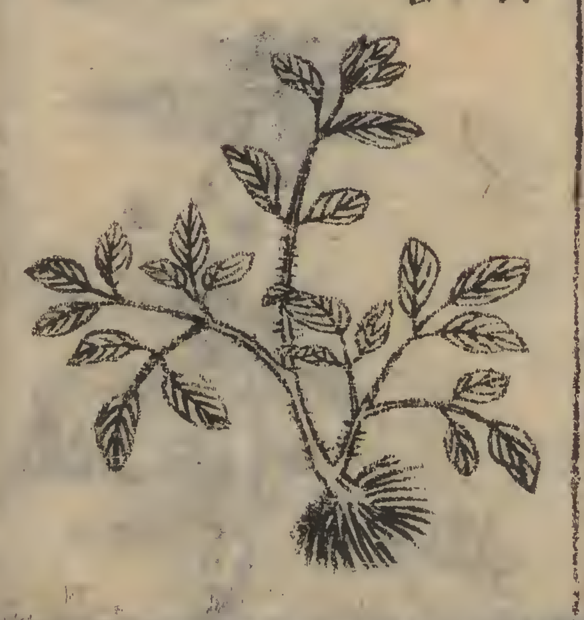
淫羊藿（いんやうくわく） 葉ハ杏に似て上に刺（とげ）ありて粟稈（あはのから）の如し根ハ黒き四月白き花をひらく又紫花もあり

貫衆（くわんじゆ） 苗生して赤く葉大さ蕨（わらび）のごとし茎幹（けいかん）三稜（みかど）葉緑色小雞（にはとり）の翅（つばさ）に似たり

仙茅（せんぼう） 葉ハ青して茅（かや）の如く軟らかに復（また）稍（やゝ）闊（ひろ）し面に縦理（しまめ）あり三月花開て梔（くちなし）子の如し実をむすばず

白頭翁（はくとうおう） 苗生して状（かたち）白薇（はくび）のごとく長して茎端に白毛あり根のときに白茸ありて白頭の老翁に似たり

白前（はくぜん） 苗ハ細辛に似て大にして色白く折易し赤葉の柳に似たるもありて芫花（げんくわ）に似たるもあり



白及 苗長一尺許藜蘆に似たる葉の端に一茎を生じ紫花をひらくなり七月実を結ぶ白色なり

白鮮 苗生し高さ尺餘あり四月に花を開て淡紫色小蜀葵に似たり根は蔓菁に似たり皮の色黄白なり

白薇 葉似柳 葉は柳に類して六七月紅花を開く八月に実を結ぶ根黄色牛膝に類して短し

地楡 宿根より生じ高さ三四尺葉狭細にして鋸葉なり七月花をひらく

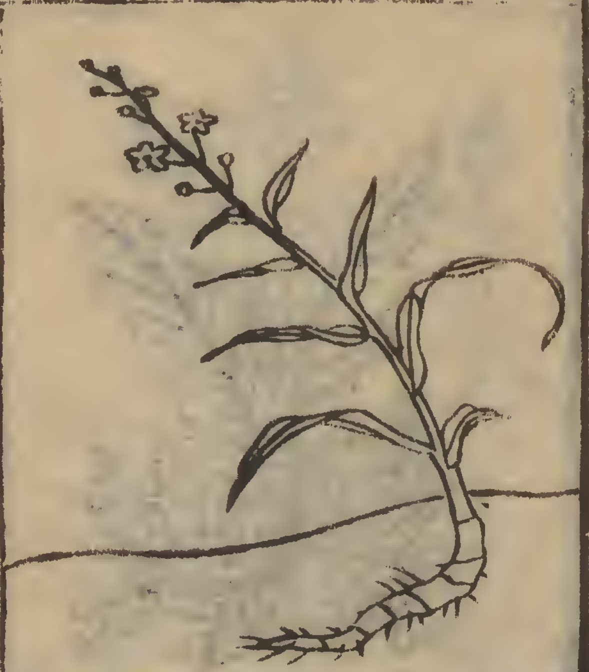
平地木 高尺ばかり葉緑にして甚多し嶽巒幽處によりて生ず

茅藤果 葉似竹のごとしよく枝ごとに葉下に生ず赤きこと丹砂の如し雪霜にもよく実をとどむ梅雨の中に開く

胡黄連 胡国に生ず今處々にあり初生葉は蘆に似たり乾ては楊柳の枯枝に似たり心黒く外黄し

黄連 苗は茶に似て叢生す一茎三葉と生ず冬も凋まず黄色に所よりて花葉の容かたちあり

橐吾 葉は款冬に似て大なり花深黄色夏花をひらく山崖岩間に生ずよく魚毒をけす



金莖花 一名高良薑 紫白金黄の三色あり諺曰不帶金莖花不得入仙家ともいへり

秋牡丹 春栽て秋花さく秋は深紅にして淡紫あり葉は三岐にして臭あり実ありて生ず

三七 本名山漆 春苗と生じ左右三四葉艾に似て厚く勁し秋黄花をひらく此葉左三右四故に三七となづく

萬年青 葉ハ薏苡ニ似て短く厚し冬こもる也ぐミのごとき菓実あり ことぶきのまつへし

金星草 葉青 多く背陰の石上に生ず葉長一二尺冬をこえて背上に黄星點子を生ず両々相對し鉄色のごとし

骨砕補 根大木に生し或ハ石上多くハ背陰の處にありこれを名ハ猴薑といふ折傷を主どれバ名あり

和名 ラモト

景天 葉ハ馬歯莧に似て大きに(?)あつし昔より慎火草と一物とす 氷同しからず大に誤あり

紫背金盤 苗の高さ一尺ばかり葉の背紫にて花なし根をもちゆる也

地錦草 苗葉細弱にして蔓となりて地に遍し茎赤く葉青し中夏後盛んに ツタラモ地錦トス別ナリ

和名 ヘンケイソウ

石莧 茎葉青くたかさ一尺ばかり葉水楊乃ごとく短し多くハ河岸沙石の上に生ず

崖椶 苗の高一二尺已来四季花ふわり其根を用ゆ むなし

石長生 葉ハ蕨に似又檜に似たり多くハ山陰石岩の下に生ず 世に石長生とし こまかくわき(?)ものあり

和名 シノブクサ

當歸 春苗を生し葉ハ三瓣わり七八月花をひらく芹に似たるものなり

肉豆蔲 胡国より出つ今嶺南人家にうえらるとうや花實ハ豆蔲に似て圓く小く皮紫に肉の肉辛

白豆蔲 苗ハ芭蕉に類し杜若に似て長八九尺にして光滑冬夏凋まず黄色実あり

白芷 葉

相對し紫色にして潤さ三指ばかり 花白く微黄にして伏日に入て実を結び立秋の後にかるゝ

蓬莪茂 卯

莪术ハ高さ二三尺 葉青白色長さ一二尺 蘘荷に類して五月花あり 穂となる 根ハ生姜のごとくなり

京三稜 春苗

を生じ高さ三四尺 茭蒲葉に似て皆三稜あり 五六月花を開く 莎草に似たり

華撥 叢生

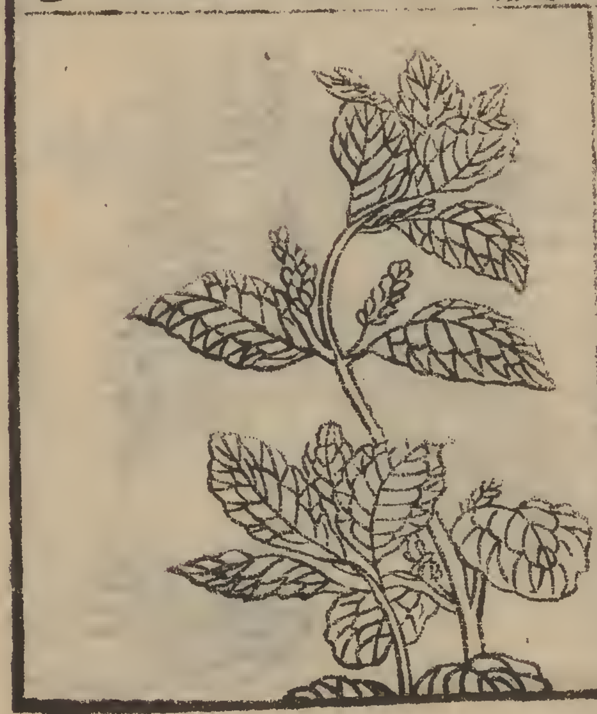
高さ三四尺 葉圓く潤さ二三寸 桑のごとし 三月白花を開く 七月子を結ぶ 椹子に類す

鬱金 四月

苗を生じ姜黄に似て花白く質紅なり 実なし 根黄赤し 地を[illegible]

補骨脂 卯

破故紙なり 茎乃高さ三四尺 葉薄荷に似て微紫色 實ハ麻子のごとく圓扁し



零陵香 葉ハ

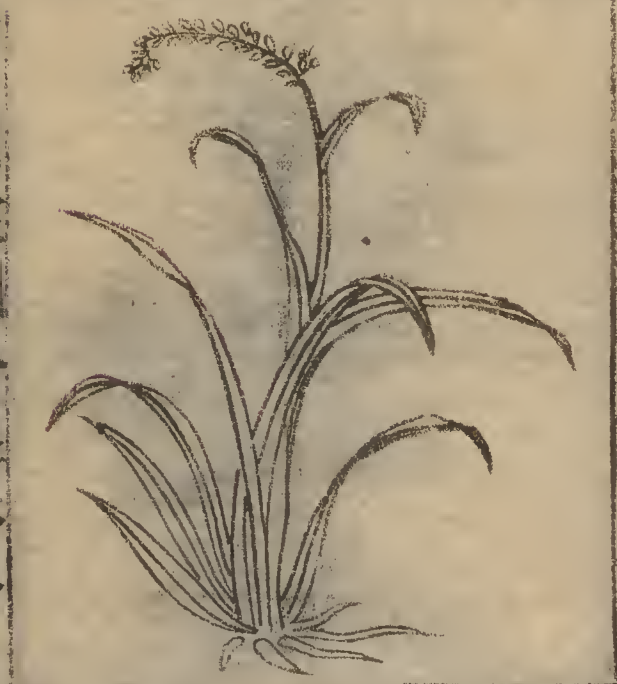
麻の如く相対れ 気ハ蘼蕪の如し 七月花を開て香しく からし

獨頭蘭 葉ハ

菖に似て小しく長く 白花ひらく 赤蘭のごとし 赤脚長頭ハ[illegible]

茅香 三月

苗を生じ大麥のごとく 五月白花を開く 又黄花あり 又実あるものあり



木香 葉ハ

羊蹄に似て長大し 花ハ菊の如し 又葉山の芋のごとく紫花を開く者あり 根の形枯骨のごとし

杜若 江湖

に生じ葉ハ姜に似て花赤色 根ハ高良姜に似て小し

莎草 卯

香附子なり 田野に廣くこれあり 葉ハ三稜に似て根ハ附子のごとく めぐり毛多し

薄荷 莖葉

蘇に似て尖長し冬を為て根死す夏秋茎葉をとり暴乾し用

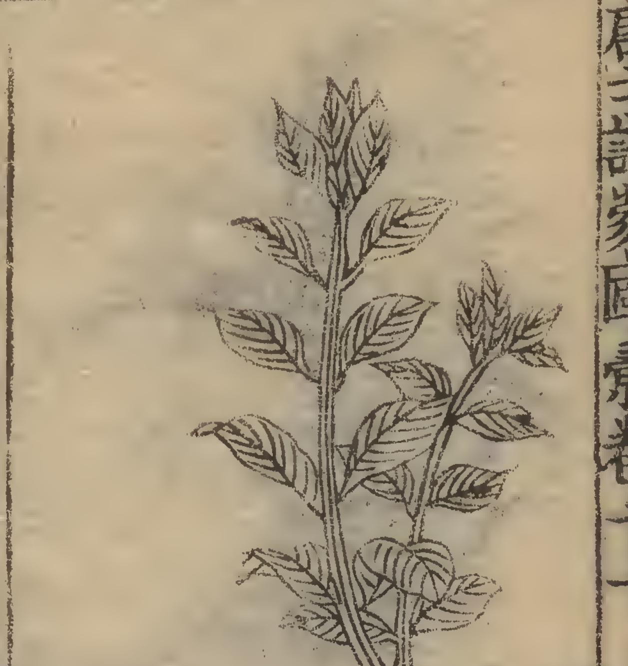
藿香 葉ハ

桑に似て小く六月に高し豆の葉に似て花を開く形ち稍長し

和ニアルハ藥ニ用テヨロシカラス

高良薑 香苗

と生し茎葉姜苗の如く大なり高一二尺なり花紅紫色山姜のごとし



益智 葉ハ

蘘荷に似て高さ餘其根の旁に小枝を生じ其花蕚ハ穂を為し子ハ棗のごとし

縮砂蜜 苗莖

高良姜に似て三四月より三月花を開て根下にあり五六月実となる

甘松香 叢

生し葉細くして茅草に似り根極て繁く密なり八月採て湯浴すれば香し

香薷 葉ハ

蘇に似て葉更に細し十月にとり一には香薷に作る

茉莉 花ハ

春末より開て白香あり花白千葉のものあり植ての翫草とすへし

藁本 葉ハ

白芷に似て香ハ甚し葉蒿に似て細し五月白花を開く七八月子を結ぶ根紫色なり

蒟醤 木に

縁て生じ其子桑の子のごとし熟すれば長さ二三寸蜜に藏て食へば辛く香し

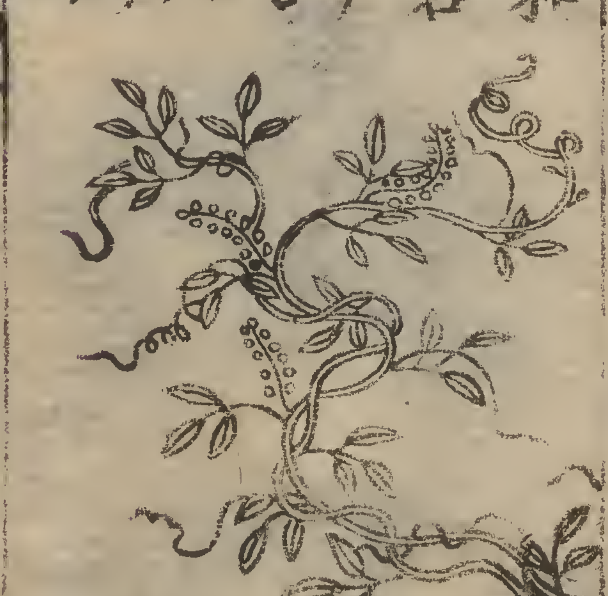
天門冬 蔓

生にして長さ一丈餘ものあり葉茴香のごとし逆刺あり刺なきもあり花咲く

菟絲子 夏

苗を生じ絲のごとく草木にまといひく六七月子を結ぶし

和名スヘルクサ


和名ウシノソウメン

葎草 葉八
萆麻のごとくにして小く細刻あり花実ハ白し子ハ麻子に類す
一名[illegible]

白薬 苗八
苦苣に似て四月に(?)して赤茎長して葫蘆に似たり六月白花を開き八月実をむすぶ

紫葛 春生
夏枯る蒲萄に似て紫色長丈大者径二三寸葉蘡薁に似て根皮ともに紫色也

赤地利 春夏
苗を生し蔓をなし草木の上にまとふ茎赤く葉青く蕎麦に似たり七月白花をひらく実の下に稜あり

預知子 蔓
生大木の上によぢ葉緑にして三角あり面ふかく背浅し七八月実あり

千里光 葉八
菊に似て枝長く幹圓くして青し背に毛あり秋茎葉を生して花あり黄色也

和名イシミカワ

使君子 三月
花を生して淡紅色久しくして深紅色五瓣あり七八月実を結ぶ大さ梔子に稜あり

纏枝牡丹 枝葉
まとふて籬落に生ず花ハ牡丹の態度ありて甚小し小葉に似て花開ハ網絡をなして稜あり

鉄線 鐃
州に生ず三月根をとり用ゆ土人腫毒に消す

和名カザクルマ

馬兜鈴 苗生
して蔓のごとく葉山芋に似たり六月黄花を開七月実を結ぶ大さ鈴のごとし

天寿根 台州
台州に生ず毎歳土貢とす其性涼にして甚胸膈の煩熱を治す

威霊仙 生ずる
ことに衆草に比して最先に葉柳に似て層て車輪のごとし花浅紫或碧白色種となれ

和名クカイソウ

白英(はくゑい) 蔓
生じて葉長く白毛あり夏花さきてなる其の実青きを経て赤し 一名ハ雪下紅

何首烏(かしゆう) 春苗
を生じ山芋の如く其蔓竹木に延て夏秋黄白花を開く葉に稜あり秋冬根をとる大ハ拳のごとし

蕃薯(ばんしよ) 此種
近年もろこしよりわたるさつまにて初て植し合(?)して味よく人みな食す…

通草(つうそう) 木通なり
葉石韋に似て三葉相対し花白く実米の如くくらべて耳(?)参なり

眉児豆(びじとう) 黒子
どう豆秋の末にいろいろの実多し花紫なり実とも…

山豆根(さんづこん) 蔓生
豆根のごとし葉まく冬も凋まず八月にとり用ゆ一種小槐の如くなるあり

南瓜(なんくわ) 實と
むすぶ正圓にして西瓜のごとく色赤しもち太く蔓ひろし
○色白キハタウ瓜ト云此類ナリ

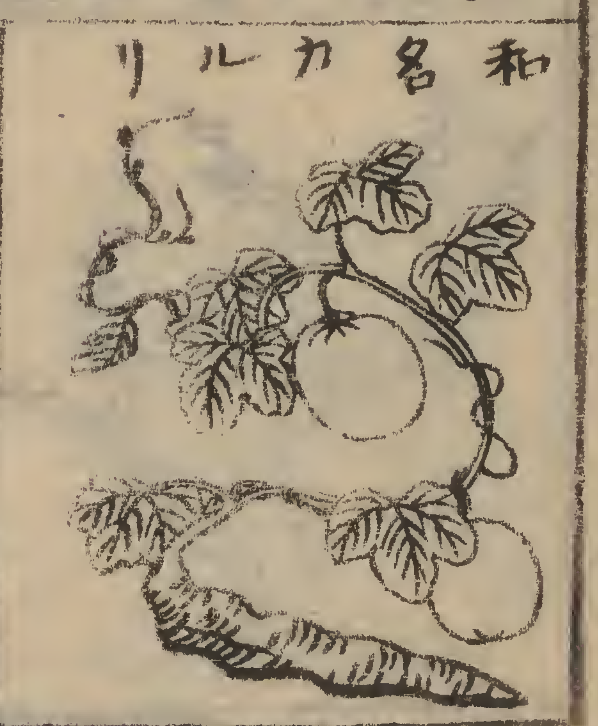
金瓜(きんくわ) 瓜の
色淡黄にして形鵞鳥の卵のごとく味甚美なり…

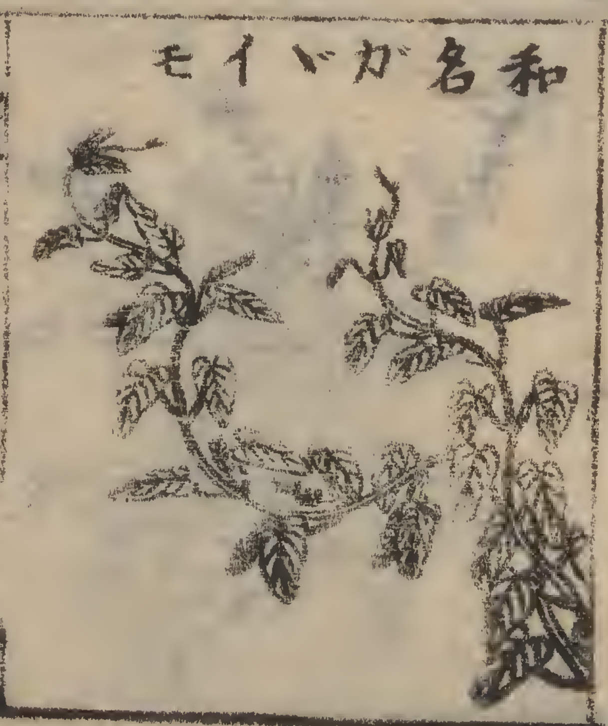
西瓜(せいくわ) 實と
瓢との間に大きさ…のごとく色青く…黒きあり…

栝楼(くわろう) 蔓
生にして甜瓜の如く細花七月に開く実むすび…の下に在て拳のごとし

蘿摩(らま) 藤
生じて葉厚し折れば白汁あり子ハ瓢の形…一名羊角菜

石南藤(せきなんとう) 天台
山中に生じ其苗のびて木上にまとふ四時衰へず





獨用藤 施劦

に生ス四時葉あり花なし葉上に刺あり一時なし

凡藤 四時

葉あり花なし
ごとくに
時なし

施劦に生ス

倉春藤 台劦

に生ス苗蔓て木上にまとふ冬を夏青月し土入葉をとりて薬に入るべし

血藤 葉八

蒲蘭の如く— 根ハ大拇指乃如し其色黄なり五月ほる

鈎藤 葉八

細長く節間に刺ありてつらく狗のごとし

百稜藤 台劦

に生ス春苗を生ス蔓て木上にまとふ花なく葉なし冬皮をとりて薬に入る

祁婆藤 天台

山中に生ス其苗蔓て木上にまとふ四時つねに葉あり土人其葉をとる

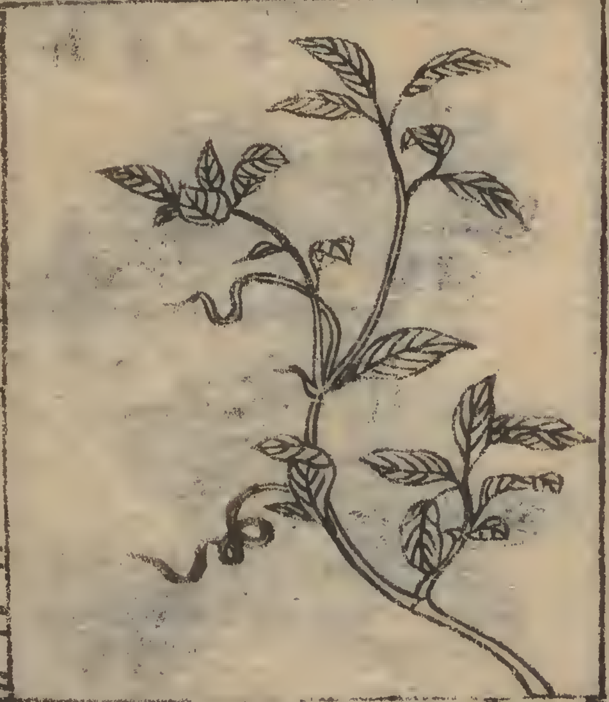
烈節 苗葉

倶に丁公藤に似たり花実なし九月にとる

落葵 籬垣

蔓延て七月の比蕃殖なり葉圓て光潤あり酒熱に合すへし實熟して紫くなるをとむへし

和名ツルムラサキ



落鳫木 蔓

生して木にまとふ葉形茶に似て花實なし四月に根をとる

百部 春苗

に生し茴香葉にて似たり二尺ほど実となりおほきに味あし

和名キチカクシ

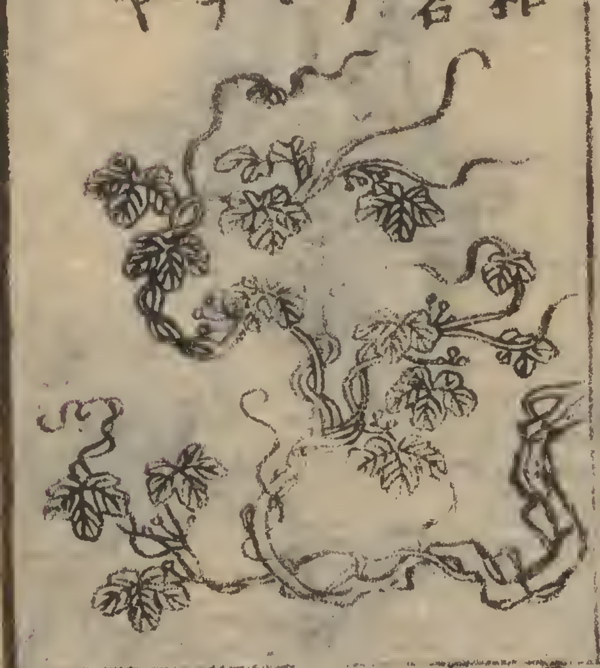
石合草 其苗

蔓て木にまとふ四時葉あり花なしその葉乃味甘とりて食ふべし

鵞抱 山林の中石に附て生じ蔓をなす葉大豆に似たり根は萊菔に似たり大小あり

木鼈子 春苗を生じ蔓をなし四月黄花を生じ六月實を結ぶ栝蔞に似て大きし其核鼈に似たり因て名づくるとし

千歳虆 葉は葡萄にてその茎白汁ありて蘡薁に似て七月実をひとむすぶ



羊乳根 蔓生して長さ二三尺茎葉ぶ葉あひして三葉あり茎をおれば白汁出づ根は蘿蔔のごとくにして皺あり又丸きもありかなるを俯るるとし

大青 苗高三尺ばかり茎石竹に類し葉圓長色青紫にて馬蓼に似たり根黄色なり

小青 三月花を生れその月葉とともに福州の土人生にてつき碎て癰瘡を治る

麻黄 夏苗を生じ夏長じて一尺ばかり梢上に黄花あり実を結て百合瓣のごとくにして小さし

地黄 二月葉を生じて地に布て車前に似たり葉上に皺文あり花は油麻の花に似て紅紫なり

葫蘆巴 春苗を生じ夏子を結び秋に至てこれをとる此種海南諸蕃に出るとし

紫菀 苗と生して其葉三四相つらなる五六月のうちに黄紫白の花をひらく実を結て黒し根とる

雞腿兒 苗の高七八寸細くして鋸歯硬厚く背白し黄花を開く根は指の大さなり一名は雞腿白草

九牛艸 二月苗生じ独茎高一尺葉艾に似て圓く長し背に白毛あり面青し

陸英（りくえい） 春苗と抽て茎に節あり節の間に枝葉と生ス大ハ水芹に似たり春夏葉をとる

水蓼（すいれう） 池沢及び洞海をこに生ス海人呼て牛蕩ス蜀郡の人其花と採て酒薬に合ス

白蒿（はくかう） 葉ハ沢瀉に似て小し其形鷺の飛に似たり根ハ慈姑のことく小圓根あり[illegible]

穀精草（こくせいさう） 穀田の中に生ス葉茎ともに青し根花並に白色一名戴星草と云ハその葉細くして花白く圓なれハ星に似たる故し

曲節草（きよくせつさう） 四月苗と生ス茎に節あり七八月花とさく薄荷に似たる子と結

馬鞭草（ばべんさう） 春苗と生して狼牙に似たり又益母あり数して茎圓し高さ二三尺三四穂と抽つなり ○鉄草と同し

茳芏（とうと） 海水の辺に生ス燈心草に似て三角し織て席とス 蒲苅ノ七島ヨリ出故ニ七島ト號ヲ名ツク

鱧腸（れいちやう） 一節 蓮子草ニ下湿の地に生ス二種あり葉柳に似て光澤あり一種ハ馬蘭に似て一種ハ桔梗に似たり

陰地蕨（いんちけつ） 葉ハ青蒿に似たく茎紫色花小穂にして微黄細辛に似たり

葶藶（ていれき） 苗と生ス葉の高六七寸三月黄花と開く子ハ角にして扁小黍粒のことし立夏の後採るへし

海金沙（かいきんしや） 初生して小株となる高一二尺七月採て日中に曝し紙をひて撃ハ甚沙を紙上に[illegible]

蛇含（じやかん） 土石の上或ハ下湿の地に生ス一茎に五又七葉あり[illegible]葉細く花黄なるを佳とス

青葙子 苗長じて三四尺葉濶く柳に似たり茎ハ青紅色花ハ穂をなし七月花をひらく二三寸白

和名ケイトウ

敗醬 一名苦菜 生ず夏花をひらく黄色根紫色紫胡に似て陳敗豆醬の氣あり故に名づく ヲミナヘシトモ云

和名ヲミナヘシ

續斷 春生 苧に似て茎方に葉相對す花白く茎を繞る色ひらく根ハ薊のごとし

和名ヲドリソウ

龍葵 葉圓く花白く実ハ牛李子の如し生ハ青く熟して黒し煮てくらふべし

和名ウシホハツキ

王不留行 葉ハ尖小にして匙の如し又楊柳のことし又菘菜に似たるもあり四月花をひらく實ハ菜の茎に似て生ず

和名キクチシヤ

筆頭菜 春初花を生ず其形筆に似たり是接續草の苗なりよく菜の生ずるもいつもなり

和名ツクぐシ

火炭母草 茎赤して柔らかに細く蓼の葉に似て端尖る夏白花をひらく秋實ハわりて豆のごとし

海根 山谷に生じ茎わく馬蓼に似て根ハ菝葜に似て小し

和名ミヅヒキ

草綿 此草春種秋花をひらく實の皮裂て綿をなせるをとりてつむぎとなして布とす此草ハ胡桓武天皇の延暦十八年三河国へ崑崙人漂着す船中に此実あり諸國へ植させしむその後種たえしをころ永禄年中再ひ種をわたして今にいたるまでひろまれり

天名精 夏秋 枝を抽て薄荷のごとく花紫白にして葉菘菜の如し花小く香氣蘭に似たり

和名ヤブタバコ

決明子 苗生して高三四尺六七月花を開黄白色其子青綠豆の如くにして鋭なり

連翹 苗生して狭長楡葉の如く茎赤く高三四尺なり花黄に秋実のる又一種蔓生なる物あり

江戸竹島早住

主　美家貞

美家貞

山鐵蕉（さんてつせう）　葉ハ蕨のごとく根ハそてつのごとし狗脊（いぬぜんまい）薇（ぜんまい）蕨の一種なり

覇王樹（はわうじゆ）　その形胡頽壁のごとし色深青にして刺あり又これくむ

肉蓯蓉（にくしようよう）並鎖陽（さやう）　西羌より出つ形藕根のごとし鱗甲あり列當鎖陽これに類し〇人誤テ而覇王樹トスルナカレ

丁香加苗（ていかうかべう）　蔓生みどりて雛色よう白茎葉ハ刺多し葉ハ牽牛葉のごとく花ハむらさき実ハ茄子の小さきごとし

鹹草（かんさう）　扶桑の東の東ハ女国あり此草を産す葉耶蒿に似て気香しく味鹹し土人これをくらふ〇今八丈の嶋にあしたアシタと云草あり此草を以てこれにあつ写し八丈八右の名述

黄花菜（くわうくわさい）　形ハ蒲公英に似て花黄なりふるくとおほく野人これをくらふ和ノ七種ニ用ゆタビラコなり